

縄文時代における東京湾東沿岸地域の海進海退 (3)

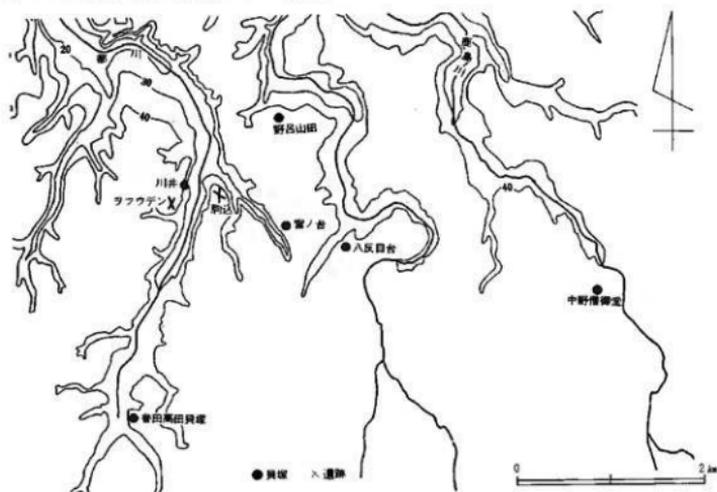
武田宗久

V 現東京湾東沿岸地域の貝塚分布 (別表・付図 14, 15, 16 参照)

北半部

(7) 鹿島川・都川沿岸

鹿島川は標高91mの千葉市小食十町に源を発し、下総丘陵の北東側を北流して印旛沼に注ぐ延長29キロ。一方、都川は下総丘陵の南西側にあつて東京湾に注ぐ。この川の水源は標高50m前後の千葉市誉田町にあり、北々東に約5キロ進み、同市川井町付近の谷を西北方に転じて約5キロ降り、標高10mの底地で坂月川と合流し、さらに約2キロ西進して標高5mとなり、ここで戸名川を合せて川幅を広めつつ、亥森丘陵の北方に展開する開析平野を進み、川口の手前でよし川を加える、延長約15キロである。



第1図 鹿島川、都川上流地域の貝塚、貝ブロックの分布図

この2つの川の上流域に所在する貝塚・貝ブロック遺跡の分布を見ると、鹿島川沿岸では中野僧御堂遺跡・八反目台貝塚・宮ノ台遺跡・野呂山田貝塚がある。このうち標高53～49.5mの中野僧御堂遺跡は、少形の茅山式と加曾利EⅢ・Ⅳ式・称名寺式・堀之内Ⅰ式・加曾利B式土器が発掘されたが、主体は加曾利EⅢ～堀之内Ⅰ式期で、加曾利EⅢ式の遺構に伴う貝ブロックが発見された。(註1)この貝は、外洋性のチョウセンハマグリ・ダンベイキサゴが多く含まれていることから、九十九里海岸からもたらされたものと思われる。(註2)

次に標高53mの八反目台貝塚は、堀之内Ⅰ・加曾利BⅠ・Ⅱ・安行Ⅰ・Ⅱ式を主体とする後期の点在貝塚で、内湾性のイボキサゴその他を含む主賦である。宮ノ台遺跡も堀之内Ⅰ～安行Ⅰ式を主とし、堀之内Ⅰ式の住居址内に加曾利B式期のハマグリ・シオフキ・アサリ・アカニシの貝ブロックが投棄されていた。(註3) 野呂山田貝塚は、標高30～35mの点在貝塚で、堀之内Ⅰ～安行Ⅰ・Ⅱ式を主とし、イボキサゴ・ハマグリ・オキシジミ・シオフキ・マテガイなどの主賦であって、(註4)鹿島川流域では、本貝塚より下流約9.5キロの地点にある四街道市山梨の前広貝塚に至る間、全く貝塚の存在を知らない。

都川の上流には、善田高田貝塚と川井貝塚がある。このうち善田高田貝塚は水源地に近い谷奥の右岸に立地し、標高48m、半月形に並んだ4ヶ所に貝の散布が見られる馬蹄形貝塚である。昭和29年このうちの2ヶ所で行なわれた発掘報告によれば、表土は混土土層約25cmで、この中に加曾利B・安行Ⅰ・Ⅱ式があり、この下に混土貝層が局部的に介在し、堀之内Ⅱ式が含まれる。貝層の厚さは約30cm前後で、貝はイボキサゴが最も多く、ハマグリ・アカニシがこれに次ぐ純賦に近い主賦貝塚で、魚類はマダイ・スズキ・コチ・ボラであったという。(註5)川井貝塚は、本貝塚から都川の谷を約2.5キロ降った左岸にある点在貝塚で、標高33m、ハマグリ・イボキサゴ・アサリ・シオフキなどを含む主賦で、土器は早期前半と安行Ⅲa式期のものが僅かに含まれるが、主体は堀之内Ⅰ～加曾利BⅢ式期である。(註6)

以上の如く鹿島川上流では中野僧御堂遺跡以外の諸遺跡は、いずれも後期前半を主体とするものであり、都川上流でも同様な現象がみられる。しかも全てが主賦性の貝類を含み、この中に内湾に棲息するイボキサゴが多いことは、これらの地域の縄文人が求めた魚貝類の搬入ルートが東京湾の海辺につながっていたことを示唆する。しかし、これらの遺跡を残した人々のすべてが都川を搬入路にしていたと断定することはできない。例えば、善田高田貝塚の場合は、その地理的位置から判断すると、後述する仁戸名川の上流にある東水砂第2貝塚・六連貝塚・野田小谷貝塚などとともに、むしろ派野川や村田川の沿岸海域に搬入路がある可能性が高い。

都川の中流域を見ると、左岸の文谷に多部田貝塚・うならす遺跡があり、さらに下ると別の小支谷に滝ノ谷貝塚・押元貝塚がある。このうち多部田貝塚は標高35m、谷との比高15m、3ヶ所に貝層の分布を認める馬蹄形貝塚で、採集土器は堀之内Ⅰ～安行Ⅱ式であるが、貝層の形成時期は加曾利BⅠ・Ⅱ・Ⅲ式期である。(註7)うならす遺跡は本貝塚の北方約700m

にあり、後期の土壌に貝ブロックを含むという。(註8)滝ノ谷と押元の2貝塚は、都川に向かってゆるやかに傾斜する微高地に所在し、前者は標高28.5mにある点在貝塚で、阿玉台・加曾利E・堀之内式を主とし、後者は標高16~24mにある馬蹄形貝塚で、加曾利E式を主とし、堀之内・加曾利B式がこれに次ぐ。

一方、都川の右岸では標高30mの台地の突端部に加曾利E式を主とする北谷津貝塚(点在貝塚)があり、これより約2.4キロ降った坂月川との合流点から、坂月川の東側の谷をさかのぼった縁辺台地に加曾利EIV式を包含する中庭貝ブロック遺跡・阿玉台・加曾利EⅠ・Ⅱ式を主とする竊立・さら坊の2貝塚と、堀之内・加曾利B式を主とする坂月台貝塚がある。いずれも標高30m前後で、竊立貝塚は点在馬蹄形、他は点在貝塚である。また西側の谷をさかのぼると東側に加曾利EⅢ・Ⅳ式を主とする広ヶ作貝塚(点在貝塚)と加曾利EⅡ・Ⅲ式を主とする滑橋貝塚(点在馬蹄形)があり、西側に加曾利貝塚群がある。

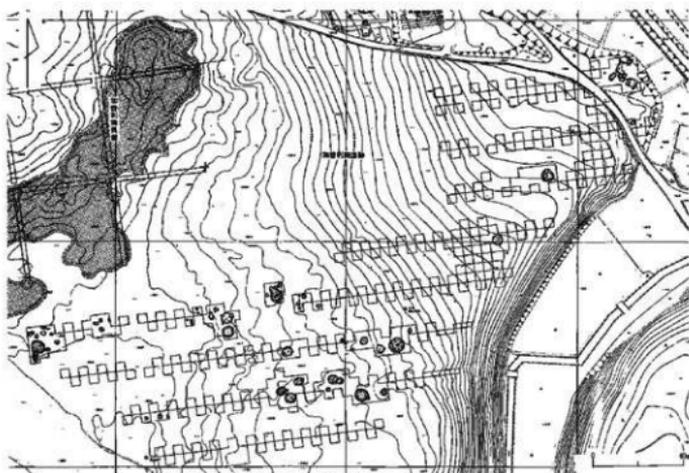
加曾利貝塚群は、加曾利北貝塚・加曾利南貝塚・加曾利西貝塚・加曾利東遺跡を総称し、西貝塚(点在貝塚)以外は大規模な局部的発掘によって、ほぼ遺跡の概要が明らかになった。北貝塚は標高34.5~28m、直径約130mの扇状貝塚で、イボキサゴ・ハマグリ・アサリ・シオフキ・ウミナナ・サルボウなど30種を含み、貝殻形成時期を思わせる土器は阿玉台・勝坂・原加曾利E(中峠)・加曾利EⅠ・Ⅱ・称名寺・堀之内Ⅰ・Ⅱ・加曾利BⅠ・Ⅱ式で、このほか加曾利BⅢ・曾谷・安行Ⅰ・Ⅱ・Ⅲa・Ⅲb・Ⅲc・姥山台Ⅱ式も採集された。(註9)南貝塚は標高32.5~34m、半月形の貝殻が3ヶ所ある直径約170mの馬蹄形貝塚で、イボキサゴ・ハマグリ・シオフキ・アサリ・オキシジミ・マガキなど35種を含み、貝殻形成時期を思わせる土器は称名寺・堀之内Ⅰ・加曾利BⅠ・安行Ⅰ式が確認されたほか、阿下台式と安行Ⅲa式が混貝土層の貝ブロックに伴なうともいう。このほか勝坂・加曾利EⅡ・Ⅲ・堀之内Ⅱ・加曾利BⅡ・Ⅲ・安行Ⅱ・姥山台Ⅲ・安行Ⅲc・前浦・大洞・大洞B-C・大洞C₁も採集された。(註10)東遺跡は南貝塚の東方に接続する平坦地(標高28~32m)から傾斜部(標高15.5~24m)にかけての部分で、平坦部の調査は昭和45・46・47年度(第1・第3・第4次)に、傾斜部の調査は昭和48年度(第2次)に実施された。この結果、平坦部から採集された土器は阿玉台・加曾利EⅠ・Ⅱ・Ⅲ・堀之内Ⅰ・加曾利BⅠ・Ⅱ・安行Ⅰ・安行Ⅱ式で、発見された住居址は阿玉台式期2・加曾利EⅡ式期9・加曾利EⅡ~Ⅲ式期1・加曾利EⅢ式期1・堀之内Ⅰ式期1・安行Ⅰ式期1・小竊穴は阿玉台式期4・加曾利EⅠ式期2・加曾利EⅡ式期11・加曾利EⅢ式期10・時期不明のもの15であった。右のうち貝ブロックを伴う住居址は5、小竊穴は2である。その内容を見ると、加曾利EⅡ式期の住居または小竊穴が一旦廃棄された後、同一時期に貝ブロックを投入したものと、堀之内Ⅰ式期の住居が廃棄され、加曾利BⅡ式期になってから貝ブロックを投入したものとがある。次に傾斜部から採集された土器は、井草・茅山・関山・黒浜・諸磯・浮島・加曾利BⅠ式で、発見された遺構は茅山式期の伊穴5・関山式期の住居址1・黒浜



第2図 加曾利貝塚群の分布状況

式期の住居址1・加曾利B I式期の住居址1であったが、いずれも貝ブロックは認められなかったという。(註11)つまり東遺跡は「加曾利東点在貝ブロック遺跡」と称した方がより適切な表現の仕方である。

坂月川との合流点から都川をさらに西進して、標高5mの地点で仁戸名川を加える。この川を3.6キロほどさかのぼった千葉市平山町で、東南方に向う平山川を分岐し、仁戸名川は南方に浸入する。さて、平山川の上限貝塚は、右岸の標高45~46mにある東水砂第2貝塚で、ハマグリ・アサリ・イボキサゴ・マガキを主とする加曾利E III・IV式期の点在貝塚、これよりやや下流の左岸にある長谷部貝



第3図 加曾利東遺跡の遺構群と貝ブロックの分布

| 加曾利東遺跡発見の貝ブロック遺構 | | | | | | |
|------------------|--------|-------------------|-------|----------|------------------------------|----------------------|
| 立地 | 標高 | 遺構と時期 | 貝ブロック | 貝ブロックの時期 | 貝の種類 | 備考 |
| 平坦部 | 32~30m | 竪穴住居址 加曾利EⅡ式 | ○ | 加曾利EⅡ式 | ハマグリ・シオフキ・アサリ・マガキ・キサゴ | (昭和46年度) 第3次発掘調査区 |
| | | 〃 | ○ | 〃 | ハマグリ・シオフキ・キサゴ・マガキ | |
| | | 竪穴住居址 加曾利EⅡ~Ⅲ式 | ○ | 加曾利EⅡ~Ⅲ式 | ハマグリ・シオフキ・キサゴ | |
| | | 小竪穴 加曾利EⅡ式 | ○ | 加曾利EⅡ式 | カキ | |
| | | 小竪穴 加曾利EⅢ式 | ○ | 加曾利EⅢ式 | 貝種記載なし | |
| | | 竪穴住居址 加曾利EⅡ式 | ○ | 加曾利EⅡ式 | 貝種記載なし | |
| 平坦部 | 31~28m | 竪穴住居址 堀之内Ⅰ式 | ○ | 加曾利BⅡ式 | キサゴ・ハマグリ・アサリ・アカニシ・ツメタガイ・シオフキ | (昭和47年度) 第4次発掘調査区 |

塚は標高41m、阿玉台・加曾利E・堀之内・加曾利B・安行Ⅰ・Ⅱ式を貝層に包含すると思われる馬蹄形貝塚、さらに約1.5キロ下流の右岸には点在馬蹄形の築地台貝塚があり、これより少し降ると舌妻貝塚がある。築地台貝塚の調査によると、貝塚の規模は長径110m、短径100mで、採集上器は加曾利EⅢ・Ⅳ・称名寺・堀之内・加曾利B・安行Ⅰ・Ⅱ・Ⅲa・Ⅲb・前浦・姥山台・大洞B-C・荒海であるが、晩期には貝層を伴わないとある。(註12) 舌妻貝塚(点在貝塚)は諸磯・阿玉台・加曾利E・堀之内・加曾利B式土器を含むが、貝層は中~後にあるものと推測される。また、左岸にある台畑貝塚は、加曾利EⅠ・Ⅱ・Ⅲ式期の点在貝塚である。

一方、仁戸名川の上流左岸には六通貝塚がある。標高40~47mを測り、南西側に村田川の支流が刻んだ茂呂谷津と称する支谷の谷頭があって、両方の分水嶺の地点にある。この貝塚は早くから注目された大型馬蹄形貝塚で、南側に開口する。貝塚の規模は東西約140m、南北約125mで、1m以上の堆積貝層がある。イボキサゴが多く、シオフキ・ハマグリ・カガミガイ・アカニシ・オキシジミ・サルボウなどの純鹹に近い上鹹の貝類を含む。採集上器は少数の諸磯式と堀之内Ⅰ・Ⅱ・加曾利BⅠ・Ⅱ・Ⅲ・曾谷・安行Ⅰ・Ⅱ・Ⅲa・Ⅲcであるが、貝層形成の時期は後期であろう。(註13) 六通貝塚から仁戸名川の谷をやや降った右岸にあるのが、加曾利E~加曾利B式を包含する野田小谷貝塚である。さらに約3キロ降ると平山川との合流点から少し手前の左岸に菱名貝塚、右岸に立馬貝塚がある。このうち、菱名貝塚はハマグリ・イボキサゴ・シオフキを上とする点在馬蹄形貝塚で、阿玉台・勝坂・加曾利EⅠ・Ⅱ式上

器を含むが、主体は加曾利EⅠ式である。(註14) 立堀貝塚は、地点貝塚で堀之内～加曾利BⅡ式期であろう。

平山川との合流点から仁戸名川を約1.7キロドると標高10m線に達する。この左岸の台地縁辺にへたの台・月ノ木・高崎台の3貝塚がある。いずれも中～後期の遺跡で、標高は20m前後である。へたの台は阿玉台・加曾利EⅠ・Ⅱ式期の点在貝塚、月ノ木は馬蹄形貝塚で貝層の厚さは1m前後を測り、谷の方向に開口する。加曾利E・堀之内・加曾利B式土器を含み、加曾利EⅡ式期の住居跡に伴う貝層が確認されている。(註15)

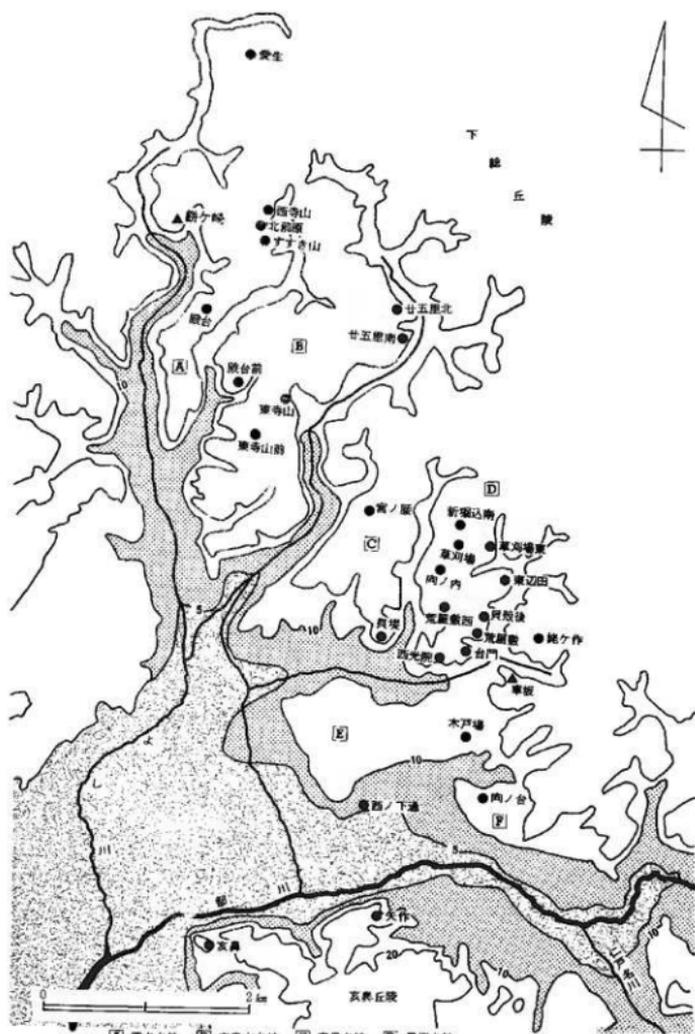
都川の下流は仁戸名川との合流点から東京湾に注ぐ河口までの間で、標高5m未満の沖積低地が広くつらなり、南側は亥鼻丘陵にはばまれ、北側は下総丘陵に大きく食いこんだいくつもの浸食谷があって、この谷と谷に挟まれた舌状台地の縁辺に、早・前・中・後期の貝塚や貝ブロック遺跡が爆発的に密集する。いまこれらの舌状台地を仮に西から東南に、殿台台地・東寺山台地・高品台地・貝塚台地・宝塚寺台地・阿ノ台地と名づけ、それぞれの台地に分布する遺跡を検討することにする。

殿台台地では西側の谷をさかのぼると、よし川の水源近くに加曾利EⅡ・Ⅲ式期の養生貝塚がある。ここから約1キロドると餅ヶ崎貝ブロック遺跡、さらに約700m下ったところに殿台貝塚がある。餅ヶ崎は標高25～28m、採集土器は井草・夏島・稲荷台・田戸下橋・駒ヶ島台・茅山・浮島・五領ヶ台・阿玉台・勝坂・加曾利EⅡ・Ⅲ・Ⅳ・称名寺・堀之内Ⅰ・Ⅱ・加曾利BⅡ・Ⅲ・安行Ⅰ式で、発掘報告によれば土拉105基のうち加曾利EⅣ式期の25基に、ハマグリ・イボキサゴを主とする貝ブロックがあったという。(註16) 殿台貝塚は標高24m、2つの貝層分布からなる馬蹄形貝塚で、採集土器は黒浜・加曾利E・加曾利B・安行Ⅱ・Ⅲa・Ⅲb・姥山Ⅱ式式であるが、貝層形成時期は後期と思われ、安行Ⅱ式期にも貝層があるという。

(註17) 一方、東側では谷奥に加曾利EⅡ式を主とする西寺山・北原原の2貝塚とすすき山貝ブロック遺跡とが近接した位置にある。すすき山は標高26～28m、加曾利EⅢ式期の住居跡・小堅穴10数基にイボキサゴ・ハマグリ・シオフキ・アサリの貝ブロックが発見された。(註18)

東寺山台地では西側の谷に面して殿台前、東側の谷奥に面して廿五里北・廿五里南があり、この谷を800mほど下った支谷に面して東寺山がある。さらに少し下って標高10m線の各谷に面して東寺山南の5貝塚がある。右のうち殿台前は標高24m、堀之内・加曾利BⅡ式を主とする後期の点在貝塚、廿五里北は加曾利EⅡ式を主とし、廿五里南は加曾利EⅠ・Ⅱ・堀之内Ⅱ式を主とする。いずれも標高28～29mに立地する点在馬蹄形貝塚で、イボキサゴ・ハマグリ・アサリ・シオフキ・オキアサリ・カガミガイが多い。東寺山貝塚も標高28m、貝類もほとんど変わらない。採集土器は阿玉台・加曾利EⅠ・Ⅱ・堀之内・加曾利B・安行Ⅰ式であるが、主体は中期の馬蹄形貝塚(註19)、東寺山南は標高26m、阿玉台・加曾利EⅡ式期の点在貝塚である。

高品台地には西側の谷奥に面して宮ノ腰、東側の谷の開口部に面して貝塚の2貝塚がある。



第4図 都川下流周辺の地形と貝塚・貝ブロック遺跡の分布

いずれも標高は28～30mで、宮ノ敷は浮島を主とし、加暦利B式も少量含む。貝塚は茅山・諸磯a・b・c・浮島J・II・III・興津・加曾利B・安行J式を採集するが、貝層は浮島・諸磯式期であろう。両貝塚はハイガイ・ハマグリ・アカニシが多い点在貝塚である。(註20)

貝塚台地は東西約600m、南北約1.5キロ、標高は局部的に30mを越すところもあるが、大部分は28m前後の平坦な地形で、東西の谷との比高は19m前後である。台地の南側は西から東へ入りこんだ谷をへだてて宝導寺台地を望み、これが防風の役割をはたす。もしも、都川下流の沖積低地が縄文時代のある時期に、古千葉湾を形成していたとすれば、この谷間は波静かな入江で、絶好な漁場であり船泊りであったろう。

台地上に密集する貝塚群の内容を分析して貝層形成の時期を推定すると、漁撈活動が初めて開始された集落は、西側の谷に面する荒屋敷西貝塚であって、採集土器に黒浜・諸磯a・b式が多く、貝種にハイガイ・ハマグリ・アカニシ・ツメタガイがめだつことから、前期後半のことであろう。中期になると草刈場・草刈場東・向ノ内・東辺田・貝殻後・荒屋敷・台門・西光院とこの台地の全面に広がり、しかも草刈場・荒屋敷のような馬蹄形貝塚が含まれる。ところが後期になると、東辺田・貝殻後・荒屋敷・西光院の諸貝塚は衰え、新たに新堀込南貝塚が加わる。右のうち草刈場と台門は、さらに晩期初頭のころまで貝層の形成があったかもしれない。

宝導寺台地は、東から西へ大きく張りだし、東側は標高28m、西側は約18mを測る。西側突端部の字名は北半部が根本台、南半分が宝導寺台である。この台地の基部には車取遺跡と木戸場貝塚がある。車取は浮島・諸磯・阿玉台・加曾利E・称名寺・加曾利B式七器を含むが、主体は浮島と諸磯が圧倒的に多く、諸磯式の小堅穴に貝ブロックが検出されている。(註21) 木戸場は夏島・浮島・諸磯a・bを含むが、主体は諸磯式期の点在貝塚である。

向ノ台地は都川に最も近い位置にある小さな舌状台地で、標高は約18m、ここにある向ノ台貝塚はマガキ・ハイガイ・サルボウ・ハマグリ・アカガイ・イタボガキなど22種類を含み採集された土器は、田戸上層・子母口・茅山・諸磯式で、茅山式期に貝層を伴ない、堅穴住居址と穴欠群が発見された。(註22)

西ノ下通貝塚について

この貝塚の発掘地点は都町字西ノ下通676番地である。貝層の分布範囲は西ノ下通から字西ノ下(676, 677, 673)にわたるものと思われる。標高は7～8mの沖積低地である。発掘報告では宝導寺台貝塚と名づけたが、この字名は本貝塚の北側にある台地の字名で、本貝塚はその直下に存在することから、本稿では西ノ下通貝塚とした。昭和43年千葉市の都市計画道路の整備に伴う拡幅工事の際、加曾利貝塚博物館が発見し、部分的な緊急発掘が行なわれた。報告書によると、厚さ約2mを測る表土および黒褐色上層の下に貝層がある。貝層上面の標高は6.5～7m、貝層直下の砂層上面の標高は4～4.6mで、この砂層は現在の東京湾沿岸にある

千葉市貝塚町貝塚群と貝層形成の時期

| 貝塚名 | 所在地 | 規模 | 貝層形成の時期(推定) | | | | | 採集七器の形式 (加E=加曽利E・堀=堀之内・加B=加曽利B・安=安行) | 主要文献 |
|---------------|--|-----|-------------|---|---|---|---|---|-------|
| | | | 早 | 前 | 中 | 後 | 晩 | | |
| 新堀込南 | 貝塚町新堀込 | 点在 | | | | | | 称名寺・堀I・堀II・加B I・加B II・安I・安II・安IIIa | ① |
| 草刈場 | 〃 木戸作 | 馬蹄形 | | | | | ? | 黒浜・浮島・下小野・阿玉台・加E・称名寺・堀I・堀II・加B・曾谷・安I・安II・安IIIa・安IIIc | ②③④⑤ |
| 向ノ内 (草刈場南) | 〃 向ノ内〜筑籠 | 点在 | | | | | | 諸磯a・浮島・阿玉台・加E・堀I・堀II・加B・安I・安II 安III | ①②④⑤⑥ |
| 草刈場東 | 〃 谷ツ上 | 点在 | | | | | | 加E・称名寺・加B・安I・安II | ①③ |
| 東辺田 (荒屋敷北) | 〃 東辺田 | 点在 | | | | | | 夏島・黒浜・浮島・阿玉台・加E IV・称名寺・堀I・加B・安I・安II | ⑤④⑥⑧ |
| 貝殻後 | 〃 貝殻後 | 点在 | | | | | | 阿玉台・加E I・加E II・加B | ⑥ |
| 荒屋敷 | 〃 畑中 | 馬蹄形 | | | | | | 黒浜・諸磯a・浮島・五領が台・阿玉台・勝坂・加E I・加E II・加E III・加E IV・称名寺・堀I・加B・安 | ③⑦⑧⑨ |
| 荒屋敷西 | 〃 貝塚向 | 点在 | | | | | | 岡山・黒浜・諸磯a・諸磯b・浮島・興津・加E・安II | ②③④⑥ |
| 台門 | 〃 台門〜殿作 | 馬蹄形 | | | | | ? | 黒浜・五領が台・阿玉台・加E・称名寺・堀I・加B・安I・安II・安IIIa・安IIIb | ②③④⑤ |
| 西光院 (下場) | 〃 干場 | 点在 | | | | | | 阿玉台・加E・加B・堀 | ①③ |
| 文献名 | ① 日暮晃一「千葉市貝塚町貝塚群の研究予報」昭和57年 ② 伊藤和夫・金子浩昌「千葉県石器時代遺跡地名表」昭和34年 ③ 犬倉昭一郎「貝塚町貝塚群の現状とその歴史的意義」(日本考古学協会埋蔵文化財保護対策委員会「貝塚町貝塚群と原始集落」昭和51年) ④ 千葉県文化財保護協会「千葉県貝塚」昭和58年 ⑤ 植沼修平ほか「草刈場貝塚南側付近採集の遺物について」(「ふき」)2 昭和47年 ⑥ 千葉県文化財センター「千葉県荒屋敷北貝塚・谷津上・須摩園遺跡」昭和51年 ⑦ 千葉県文化財センター「千葉県荒屋敷貝塚」昭和51年 ⑧ 千葉県都市公社「千葉県荒屋敷貝塚」昭和49年 ⑨ 千葉県文化財センター「千葉県荒屋敷貝塚」昭和53年 ⑩ 千葉県教育委員会「千葉県史料篇」I 昭和51年 | | | | | | | | |

砂泥性の海成砂層と同質のものと同認められる。砂層の近くには炭火物を多量に含む厚さ5cm前後のうすい泥炭層が非常に広い範囲で堆積し、この層や砂層直上の混土貝層には関山式や黒浜式の上器の破片が含まれる。貝層はハマグリ・マガキ・ハイガイを主とするもので、その厚さは1.5～2.5mを測り、この中に焼けた貝ブロックや灰層が複雑に介入し、全体として帯状に堆積し、しばしば赤褐色の酸化鉄が付着する。貝層中の遺物の出土状況を見ると、土器は下部から上部に関山・黒浜・諸磯a・b・c・浮島Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・五領が台・下小野がほぼ間断なく続く。しかし、これらの土器と石器の量は発掘面積の割には極めて少なく、しかも土器はほとんど小破片で完成品はなく、石器はすり石・砥石・たたき石・石皿といった調理加工具が多く、土掘り具と思われる斧形石器はあるが、利器はない。獣・魚骨は豊富で灰層中に多い。このほか小型の自然石が人量に含まれ、貝層の上部から中部にかけて多く出土し、加熱を受けているものが多く、「貝層中に何ヶ所となく堆積する焼貝層や灰層の存在を考えると、当時海岸であったと思われるこの周辺で、頻りに火が焚かれていたことが想像される」という。報告者は以上の諸点から、貝層が帯状に堆積するのは「海水の干・満によって、当初はブロック状に捨てられた貝層が、しだいにならされて平らになったものであり、貝層や出土遺物に付着した酸化鉄も同様の所産と考えられる」とし、この貝層の性格は集落遺跡ではなく、獣類や魚貝類の捕獲、採集の拠点であろうことを示唆している。(註23)

筆者は、この貝塚が標高4～4.6mの海成砂層上において、貝層の厚みが2m前後もあり、しかもその堆積状況が海水の流入によって変化したことを想わせる帯状であること、貝層の中に縄文前期前半から中期初頭にかけての土器が、ほぼ時代順に含まれていること、貝層中に何ヶ所も集石炉の存在を暗示するところがあることなどを総合すると、都川の下流地帯にあったであろう古千葉湾の成立と海進の状況が、本貝塚の貝層の中に可視的に凝縮されている希少な遺跡であると理解すべきものと考えている。この点に関しては、いずれ別項で述べることにする。

次に、亥鼻丘陵には矢作貝塚と亥鼻貝塚がある。矢作は標高27m、堀之内式期に貝層を伴う馬蹄形貝塚で、採集土器は茅山・諸磯・加曾利E・堀之内・加曾利B・安行Ⅰ・Ⅱ・Ⅲa式である。(註24) 亥鼻は標高約20m、堀之内・加曾利B式を採集する地点又は点在貝塚と思われるが、千葉城の構築と明治初期の土砂採掘によって削平された部分が多く、僅かに貝殻の分布を残すだけで、詳細は不明である。

都川の下流周辺には、この外に点在貝塚として姥ヶ作と北原がある。姥ヶ作貝塚は貝塚台地の東側の谷向うにあり、阿玉台・加曾利E式期、北原貝塚は高品台地の西側の谷奥からやや離れた地点において、茅山・浮島・加曾利B・安行Ⅰ・Ⅱ式を採集するが、主体は後期である。



1. 草刈場貝塚 2. 向ノ内貝塚 3. 荒屋敷西貝塚 4. 東辺田貝塚
 5. 荒屋敷貝塚 6. 台門貝塚 7. 姥ヶ作貝塚 8. 草坂遺跡 9. 新堀込南貝塚
 10. 草刈場東貝塚 11. 貝塚貝塚 12. 貝塚後貝塚 13. 西光院貝塚

第5圖 貝塚町貝塚群

- 註1 千歳県文化財センター『千歳市中西野遺跡』昭和62年
- 註2 中野信直堂遺跡以上の貝塚は現在千歳市の歴史十記の丘博物館に保存されており、筆者は平成元年同博物館学芸課長横川隆道氏のはからいで実見し、貝類がチョウセンハマグリ・ハマグリ・ダンベイネサゴ・シオフォネ・マガホ・オホシジミであることを知った。ここに便宜を与えられた岡川氏に謝意を表する。
- 註3 山中英世『千歳市八反目台貝塚』（加富利貝塚博物館紀要）11 昭和69年。この中に宮ノ台遺跡に関する記事がある。
- 註4 川戸彰『野呂山田貝塚』（田端手帳）昭和67年。千歳市教育委員会『千歳市野呂町道路拡幅工事に伴う遺跡確認調査』昭和61年
- 註5 学問院高等科史学部『貫田高田貝塚』昭和30年。
- 註6 千歳市教育委員会『千歳市埋蔵文化財分布地図改訂版附録』昭和69年。
- 註7 前田壽『千歳多摩田貝塚出土遺物遺体』（『入塚考古』）5 昭和39年
- 註8 千歳市教育委員会『ラフウデン遺跡発掘調査報告書』（『千歳市文化財調査報告第1集』）昭和51年に記載する。
- 註9 加富利貝塚博物館『加富利貝塚』I 昭和42年・同『加富利貝塚』III 昭和45年・同『加富利貝塚』IV、昭和46年・加富利貝塚東横山第5次発掘調査概報（『加富利貝塚博物館紀要』）8 昭和57年
- 註10 加富利貝塚博物館『加富利貝塚』II、昭和43年・同『加富利貝塚博物館紀要』6 昭和56年
- 註11 『昭和45・46年度加富利貝塚東横山前遺跡発掘調査概報』（『加富利貝塚博物館紀要』）6 昭和56年・昭和47年度加富利貝塚東横山前遺跡発掘調査概報（『加富利貝塚博物館紀要』）7 昭和59年
- 註12 久保常晴『千歳県千歳郡築地台貝塚』（日本考古学協会『昭和25年度日本考古学年報』）昭和30年・千歳県文化財センター『千歳市築地台貝塚』昭和53年
- 註13 千歳県文化財センター『六通貝塚貝層編年確認調査』（『研究連絡誌』）18 昭和61年
- 註14 後藤和民・庄司克『千歳市平山町妻名貝塚調査概報』（『加富利貝塚博物館紀要』）2 昭和44年
- 註15 千歳市『千歳市誌』昭和28年
- 註16 千歳市教育委員会『千歳市湖川郡ヶ崎遺跡発掘調査予報』昭和55年・千歳市文化財調査協会（千歳市湖ヶ崎遺跡）昭和63年・横田正美『砂鏡形住居址とその遺物について』（『加富利貝塚博物館紀要』）9 昭和58年
- 註17 阿部芳郎『千歳市殿台町殿台貝塚出土の遺物について』（『加富利貝塚博物館紀要』）8 昭和57年
- 註18 後藤和民・庄司克『すすき山遺跡発掘調査概報』（『加富利貝塚博物館紀要』）5 昭和47年
- 註19 穴倉一郎『廿五里南遺跡』（『日本考古学年報』）24 昭和48年・東寺山遺跡群発掘調査会『千歳市東寺山遺跡群発掘調査報告書』昭和45年
- 註20 芥門義範『縄文時代前期後半の 資料』（『加富利貝塚博物館紀要』）12 昭和60年
- 註21 千歳県都市公社『1京葉』昭和48年
- 註22 千歳県立千歳第一高等学校歴史研究部『千歳市都町字向ノ台貝塚の発掘に就いて』（『かつらぎ』）復刊号、昭和22年・千歳市『千歳市誌』昭和28年
- 註23 庄司克『千歳市都町定禅寺台貝塚発掘調査概報』（『加富利貝塚博物館紀要』）3 昭和45年
- 註24 武田宗久『下飯沼穴貝塚発掘報告』（『考古学』）9巻8号 昭和43年・千歳県文化財センター『千歳市矢作貝塚』昭和56年

⑧ 亥鼻丘陵西側と浜野川沿岸

東に都川の支流仁名川、西に東京湾の海岸平野を望む亥鼻丘陵は、古千葉湾に面するあたりで標高20～27mであるが、南東に行くに従って次第に高度を増し、浜野川の上流縁辺の台地から村田川の北岸では40～50mに達する。この丘陵の西側を蚕食する樹枝状の谷々の縁辺に立地する貝塚と貝ブロック遺跡の分布を概観すると、標高の低い北半部には小規模なものが散在し、南半部では大小さまざまな規模の遺跡が多く、特に浜野川と村田川に挟まれた周辺の台地に濃厚である。

まず北半部を見ると、千葉寺町の小支谷に稲荷山と鷲谷津の点在貝塚がある。稲荷山は清磯式を上とし、鷲谷津は堀之内・加曾利B式期である。宮崎町支谷に面するオクマンノ貝塚は茅山式の点在貝塚、今井町の小舌状台地にある塚塚は堀之内・加曾利B式期の地点貝塚、赤井町支谷に面する点在貝塚の雉ノ宮は堀之内式期、生実町の小支谷の奥にある大寛寺山脇貝塚は堀之内・加曾利B式期の点在貝塚である。ただこの小支谷の開口部の東側の舌状台地にある森台貝塚は、半月形の貝層が2ヶ所にある馬蹄形貝塚で、ハマグリ・アサリ・シオフキ・イボキサゴなどが多い。採集十器は、鶴ヶ島台・茅山式を備かに含むが、主体は堀之内・加曾利B式である。

南半部では、浜野川の水源をなす通称赤塚谷の泉谷の縁辺台地に密集する。昔はこの2つの谷奥には豊富な湧水池があって、そこから流れ出る水は南生実町と椎名崎町との境で合流し、南生実町字神門の低湿地を西進して東京湾へ注いでいた。つまりこれが浜野川の本流である。ところが慶長年間（1596～1614）南半部の海岸平野一帯の産瀝用水を確保するために、村田川の水を導く人工水路（通称草刈堰）を造った。このため現在は字神門と浜野川との間の自然の水路がほとんど消滅に近い状態になっている。（註1）

さて、赤塚谷の北岸には標高30～37mの地点に鎌取場台貝塚・南二重堀遺跡・七赤塚貝塚があり、南岸には有吉北貝塚がある。また、泉谷津では、標高40～42mの地点の北岸に有吉貝塚・有古城跡遺跡・大井戸作貝塚、南岸に木戸作貝塚がある。

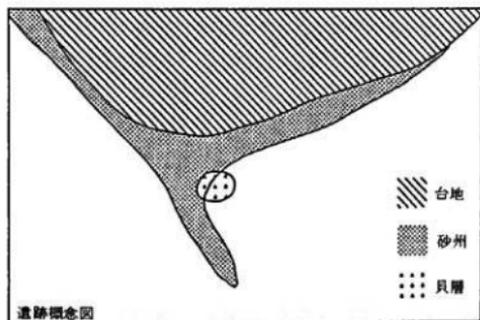
本稿ではこれらの遺跡と村田川沿岸に分布する貝類を含む遺跡を「千葉市東南部～市原市北部の貝塚・貝ブロックを含む遺跡」と題する一覧表にまとめて、それらの規模・貝層・貝ブロック形成の時期・採集した土器の形式を掲示することにした。従って以下に記載する遺跡は特に補足説明を要するものに限定した。

南二重堀遺跡の発掘報告によれば、採集土器は稲荷台式と加曾利E式が主体をなし、遺構は黒浜式・阿下台式住居址各1軒・加曾利E式住居址数軒と土塋6基がある。このうちの1基は加曾利E式期で、イボキサゴを多量に含む貝ブロックが検出された。（註2）また、有吉北貝塚は全面積の約3分の2を発掘した結果によれば、規模は長径130～短径100mの点在馬蹄形を呈し、貝層は台地上と斜面にあり、貝層形成の時期は加曾利E式直前から加曾利EⅡ式期

にかけてであるという。なお早期末葉の炉穴群も検出されたが、貝ブロックを伴うものは皆無であった。(註3) 古吉城跡遺跡は、戦国時代に後北条氏の築城にかかり、里見氏との攻防戦が展開された戦場でもあるだけに、縄文時代の遺構の大部分は破壊されていたようである。発掘報告によれば、早期終末の条痕文土器を伴う炉穴群と土塊群が発掘された。このほか時期不明のハイガイ・カキを伴う上墳があったという。(註4) 木戸作貝塚は後述する小金沢貝塚とともに全面発掘された点在馬蹄形貝塚で、長さ140m、短径110mの規模をもち、7つの地点貝塚によって構成され、その分布は台地縁辺から北側の斜面にかけてである。貝層に堆積する大部分は堀之内I式期という短期間に形成された。本貝塚の貝類はイボキサゴが圧倒的に多く、次いでハマグリ・シオフキ・アラムシロ・ウミナなどの内湾の砂質底に発達する潮間帯から水深数m以浅に生息するものである。このことから、発掘報告者は本貝塚が「嘗なまれていた当時、泉谷津と赤塚支谷との出合付近の海域に生息していたものであり、これらの貝類を採取するために、遺跡から西へ約1キロ下る必要があった」と推定している。(註5)

神門貝塚について

本貝塚は、赤塚谷津と泉谷津を流れる水が合流する地点から西へ約700m、木戸作貝塚からは直線距離で約1.6キロ下流にある低湿地の地下深く埋蔵されていた早期後半から前期の貝塚である。この貝塚発見の動機は、昭和50年から千葉市東南部の南生実・行吉・人羅野・大金沢・小金沢・椎名崎・富岡等の各町一帯約605ヘクタールに、「おゆみの」と称する住宅団地を造成する事業に伴う排水工事と東京湾岸部を結ぶ計画道路を建設する計画に基づき、千葉県文化財センターが、昭和60年に遺跡の確認調査を実施中に発見したものである。発掘調査は排水工事部分を千葉県文化財センターが昭和60年6月～同62年3月まで、隣接する北側の道路予定部分を千葉県文化財調査協会が昭和62年6月～同63年3月まで実施した。この結果、千葉県文化財センターが行なった予備調査(昭和60年6月～同61年3月)の報告は、昭和63年3月



第7図 千葉市南生実町神門貝塚(寺門橋範囲内)

発行の『千葉市浜野川遺跡群』の中に収められているが、本調査の報告は発行されていない(平成2年2月現在)。けれども、本貝塚の重要性に鑑み、本稿では千葉県文化財センターと千葉県文化財調査協会が今日までに発表した諸資料を総合して概

千葉市東南部～市原市北部の貝塚・貝ブロックを含む遺跡

| 名称 | 所在地 | 規模 | 貝層・貝ブロック形成の時期(推定) | | | | | 採集土器の形成 (加E=加勝利E・堀-堀之内・加B=加勝利B・安・安?) | 主要文献 |
|--------------|--------------|-------|-------------------|---|-------|---|---|---|------|
| | | | 早 | 前 | 中 | 後 | 晩 | | |
| 大覚寺山臨 | 千葉市生実町大覚寺臨 | 地点 | | | | | | 堀・加B | ① |
| 鎌取場台 | 鎌取町鎌取場台 | 点在 | | | | | | 堀・加B | ② |
| 南二重堀 | 生実町2857-1 他 | 点在 | | | 貝ブロック | | | 稲荷台・黒浜・浮島・阿玉台・加E I・II・堀 | ③ |
| 上赤塚 | 南生実町上赤塚 | 馬蹄形 | | | | | | 茅山・加E・堀・加B・安I・II | ② |
| 森台 | 南生実町南生実台973 | 馬蹄形 | | | | | | 鶴ヶ島台・茅山・堀・加B | ④ |
| 有吉北 (日照田) | 有吉町日照田730 他 | 点在馬蹄形 | | | | | | 茅山・中峠・阿玉台・加E I・II・III・IV・称名寺・堀・加B・安I・II | ⑤ |
| 有吉城跡 | 有吉町有吉城址 | 点在 | 貝ブロック? | | | | | 茅山上層 | ⑥ |
| 大井戸作 | 有吉町駒見台大井戸作 | 点在 | | | | | | 加E・堀・加B | ⑦ |
| 有吉 (有吉南) | 有吉町有吉～宮前 | 点在馬蹄形 | | | ? | | | 加E I・II・堀I・II・加B | ②④⑦ |
| 木戸作 | 椎名崎町859 | 点在馬蹄形 | | | | | | 加E・称名寺・堀I・加B | ⑧ |
| 神門 | 南生実町神門740 他 | 地点 | | | | | | 堀が島台・茅山・花壇下層・岡山I・II・黒浜・浮島I・湯渡 ・中・十三番堀・奥津・阿玉台・加E II・堀I・加B I ・II・丸島 | ⑨ |
| 小金沢 (塚面) | 小金沢塚面929-4 他 | 点在馬蹄形 | | | | | | 茅山・黒浜・加E IV・堀I・加B・安I・II | ⑩ |
| 六通 | 小金沢町六通332 他 | 馬蹄形 | | | | | ? | 堀I・II・加B I・II・III・曾谷・安I・II・III a・III c | ⑪ |

| | | | | | | | |
|---------------|-----------------|-------|--|-------|---|---------------------------------------|-----|
| 六通金山 | 大金沢向出西 480 他 | 点 在 | | 目ブロック | | 孝山・加EⅢ・Ⅳ | ⑫ |
| 野田小谷 | 簗田町野田字小谷 | 点 在 | | | | 阿玉台・加EⅢ・加B | ①⑦ |
| 簗田高田 | 高田町冬寒台・中芝・貝塚 | 馬 蹄 形 | | | | 加E・堀・加B・安I・Ⅱ | ⑬ |
| 大膳野北 (大膳野) | 大膳野町人盛野 | 点 在 | | | | 加E・堀・加B | ②④⑦ |
| 大膳野北 | 大金沢町 543-2 他 | 点 在 | | 目ブロック | | 孝山上層・黒浜・諸磯a・b・浮島・興津・加EⅡ・Ⅲ・加BⅡ・千網・大洞A' | ⑬ |
| 大膳野南 | 大金沢町オケラ台 | 馬 蹄 形 | | | | 諸磯・加E・堀・加B | ②⑦ |
| 杉ノ台 | 中西町中西台 | 点 在 | | | | 加B | ② |
| 草 刈 | 市島市 草刈字下切付 他 | 馬 蹄 形 | | | | 早期・前期・勝坂・阿玉台・中峠・大木8a・曾利・加EⅠ・Ⅱ・Ⅲ | ⑬ |
| 西鹿ノ原 | 番場字鹿ノ原 | 地 点 | | | | 阿玉台・加E | ④ |
| 多竜台 | 喜多字多竜台 695 他 | 馬 蹄 形 | | | | 加E・堀・加B・安I | ④ |
| 福寿院 | 菊間字深道 | 地 点 | | | | 縄文 | ② |
| 北野谷 | 菊間北野谷貝塚台 | 地 点 | | | | 縄文 | ② |
| 小幡神社 | 菊間字雲ノ境 | 地 点 | | | | 縄文 | ② |
| 徳 永 | 菊間字徳永 | 地 点 | | | | 縄文 | ② |
| 辰己台 | 大蔵字辰己原 他 | 点 在 | | | ? | 堀? | ②⑦ |
| 門 前 | 門前1116 他 | 馬 蹄 形 | | | | 加E・堀・加B | ④ |

| | | | | | | | | | |
|------|--|-------|--|--|--|--|--|--------|----|
| 手 永 | 菊間手永2137 他 | 馬 跡 形 | | | | | | 堀・加B・安 | ㊦㊧ |
| 主要文献 | <p>① 千葉県教育委員会「千葉市史史料編」Ⅰ、昭和51年</p> <p>② 千葉県文化財センター「千葉県埋蔵文化財分布地図」②、昭和61年</p> <p>③ 千葉県文化財センター「南三重堀遺跡」（『千葉東南部ニュータウン』）12、昭和58年</p> <p>④ 千葉県文化財保護協会「千葉県の旧塚」昭和58年</p> <p>⑤ 上守秀明・小宮孟「千葉県「千葉市有吉北貝塚の調査」（『日本考古学協会第53回総合研究発表要旨』）昭和62年</p> <p>⑥ 千葉県文化財センター「馬ノ口遺跡・有吉城跡・白鳥台遺跡」（『千葉東南部ニュータウン』）15、昭和59年</p> <p>⑦ 伊藤和夫・金子浩昌「千葉県石器時代遺跡地名表」昭和64年</p> <p>⑧ 千葉県文化財センター「木戸作遺跡」（『千葉県東南部ニュータウン』）2・7、昭和50・54年</p> <p>⑨ 千葉県文化財センター「千葉市浜野川遺跡群」昭和63年 金丸誠・藤生正信・服部哲朗「低湿地遺跡の水浸木質遺物の取り上げ」（千葉県文化財センター『研究連絡誌』20、昭和62年・寺門義範「神門遺跡の調査」（千葉県市文化財調査協会「浜野川神門遺跡現地説明会資料」）昭和63年・寺門義範「千葉市神門遺跡の調査」（加賀村貝塚博物館「東京湾東沿岸の早・前期貝塚」）昭和64年</p> <p>⑩ 千葉県文化財センター「小金沢貝塚」（『千葉県東南部ニュータウン』）10、昭和57年</p> <p>⑪ 千葉県文化財センター「六通貝塚貝層堆積確認調査」（『研究連絡誌』）18、昭和61年</p> <p>⑫ 千葉県文化財センター「六通金」遺跡」（『千葉東南部ニュータウン』）11、昭和56年</p> <p>⑬ 学習院高等科史学部「千葉県香田高田貝塚発掘概報」昭和30年</p> <p>⑭ 千葉県文化財センター「大幡野北遺跡」（『千葉東南部ニュータウン』）16、昭和60年</p> <p>⑮ 千葉県文化財センター「草刈遺跡確認調査の概要」（『千原台ニュータウン』）1、昭和55年・千葉県文化財センター「草刈遺跡B区」（『千原台ニュータウン』）Ⅲ、昭和61年</p> <p>⑯ 市原市文化財研究協議会「市原市遺跡分布図」昭和46年</p> <p>⑰ 鹿野光行「市原市菊間手永貝塚採集の上器片」（『伊知波貝』）3、昭和55年</p> | | | | | | | | |

要を記するにとどめ、いずれ項を改めて私見を述べるつもりである。

神門貝塚は、その北側にある標高10m前後の洪積世台地から南へ約300mほどはなれた水田面下にある。地形は台地の裾部から本貝塚の方向へゆるやかに傾斜する。千葉市文化財調査協会が行なったボーリング調査によると、貝塚の位置は、台地の裾から南東方に突き出た砂州の内側にあって、貝層の分布範囲は南に狭く北方に広がった不整三角状を呈し、総面積は約500㎡と推定される。このうち、千葉県文化財センターが調査した部分は南端部約35㎡、千葉市文化財調査協会はこれに隣接する北側部分215㎡であるから、残りの約半分は未調査地区となる。

水田面の標高は、県文化財センターの部分で6.60m、千葉市文化財調査協会の部分で6.70mを測る。この地を下を2.10～1.70mほど掘り下げると上部貝層の上面が現れる。両調査区内に於ける貝層の最大東西幅は29m、南北幅は15mで、貝層は東西の方向にレンズ状に堆積する。貝層の厚さは北側の中央部で2.1mである。下部貝層は千葉県文化財センターの部分には存在せず、千葉市文化財調査協会の部分から未調査区域の部分にわたるものと推測される。千葉市文化財調査協会の部分では東西幅24m、南北幅8mである。貝層の厚さは10～20cmの層と10cmあまりの層との2枚からなり、この貝層の上部・下部および周辺部では植物根や水流などによる擾乱がみられる。下部貝層の底面は標高2.10mを測り、その下にうすい緑灰色シルト質細粒砂層があって、その下に砂層がある。

上部・下部貝層の組成はいずれもハマグリを主とし、ハイガイ・マガキ・アカニシなどで構成され、純貝層も認められるが、全体的には混貝砂層ないしは混砂貝層からなり、その多くは

表6.

| 標高 | 千葉市文化財調査協会 | 千葉県文化財センター | 時代 |
|-------------|------------|-------------|----------------|
| 地表面(水田面) | 6.70 m | 6.60 m | 現代 |
| | | | 弥生・古墳 古代・中世 |
| 上部貝層上面 | 5.00 m | 4.50～3.90 m | 縄文前期 |
| 上部貝層底面 | 2.90 m | 3.50～3.40 m | |
| シルト層 | 2.60 m | ? | |
| 下部貝層上面 | 2.40 m | / | 縄文早期後半 |
| 下部貝層底面 | 2.10 m | | |
| 緑灰色シルト質細粒砂層 | | | |
| 砂層 | | | |

破砕の極度に進んだ貝層である。貝層中には、炭化物・灰・熱を受けた貝殻を含む層もあり、おおむね水平に堆積する。貝層中からはイノシシ・ニホンジカ等の獣骨やマダイ・クロダイ・イナダ・サバ類・コチ・ヒラメ・スズキ・サメなどの魚骨が少なからず出土する。特に上部貝層中からはイルカ一頭分の解体骨と思われるものも発見された。このほか土器・石器・流木・植物遺体（ドングリ・クルミ・ヒョウタン）・木製品・植物製品などがある。貝層中の土器は下部貝層に縄文・縄土式が含まれ、上部貝層に花縄下屈・関山Ⅰ・Ⅱ・黒浜・浮島Ⅰ・諸磯a・b・c・十三菩提・興津式が含まれる。

遺構は集石跡と集石炉跡である。このうち集石跡は、下部貝層に伴なう砂州上にあるもの3基、上部貝層に伴なう砂州上にあるもの45基、上部貝層中にあるもの1基である。集石炉跡は上部貝層に伴なう砂州上にあるもの1基、上部貝層中にあるもの3基である。もっとも、『千葉県文化財センター年報』12に報告された集石群22基の中には「屋外での可能性が高い」ものがある由であるから、実際の基数はかなり変動があるものと思われる。

いずれにしても、神門貝塚の発掘調査によって、早期後半から前期の時代の海岸線がこの砂州のすぐ近くにあったことが明確に立証された。そしてこの時代の周辺の海の自然環境は、ハマグリ・ハイガイ・マガキなどが多く生息する淡水の流入する砂泥底の内湾であった。この周辺に集まった人々は、この砂州や時には彼等が捨てた塵介の上で、獲獲・採集した獣類や魚貝類を調理するために、海辺に打ちあげられた小石を集めて加熱し、頻りに蒸し焼き（石蒸し調理法）にしていたのである。

註1 千葉県教育委員会『千葉市史近世近代編』昭和49年

註2 千葉県文化財センター『南二重編遺跡』（『千葉県東部ニュータウン』）12 昭和58年

註3 上守秀明『遺構内堆積貝層の持つ意味について』（千葉県文化財センター『研究連絡誌』）15 昭和61年・上守秀明・小宮孟『千葉県千葉市有古北貝塚の調査』（『日本考古学協会第53回総会・研究発表要旨』）昭和62年

註4 『別冊歴史叢書』巻13・千葉県文化財センター『馬ノ口遺跡・有吉崎跡・白鳥台遺跡』（『千葉県東部ニュータウン』）15、昭和59年

註5 千葉県文化財センター『木戸作遺跡（第2次）』（『千葉県東部ニュータウン』）7 昭和54年・小宮孟『貝塚産魚貝類の解析と課題 ― 千葉市木戸作貝塚の資料を中心として』（千葉県文化財センター『研究紀要』）6 昭和56年

神門貝塚の集石跡と集石炉跡

| 名称 | 場所 | 基数 | 規模 | 構成・特徴 | 時期 | 資料 |
|-----|-------|---------|-----------|----------------------------|------------|--|
| 集石跡 | 上部貝層外 | 22 | 小 型 | 構成は小さい炭化物を伴うものがある。炉址の可能性あり | 黒浜～ 諸磯式 | 『千葉県文化財センター年報』12、昭和62年 |
| | 下部貝層外 | 1 | 180×120cm | 焼石105、土器2、炭 | 条痕文 | |
| | " | 1 | 120×40 | 焼石22 | " | |
| | " | 1 | 150×70 | 焼石20、土器1 | " | |
| | 上部貝層外 | 1 | 100×70 | 焼石115 | 花積下層式 | |
| | " | 1 | 60×40 | 焼石10、骨2、種子 | " | |
| | " | 1 | 170×120 | 焼石7、土器31、材4、種子10、骨28 | " | |
| | " | 1 | 200×150 | 焼石67、土器4、炭 | " | |
| | " | 1 | 150×60(+) | 焼石48、種子2、炭 | 黒浜式 | |
| | " | 1 | 80×60 | 焼石51、土器1 | 花積下層式 | |
| | " | 1 | 120×60 | 焼石40、炭 | " | |
| | " | 1 | 80×40 | 焼石33、材1、種子2、炭 | " | |
| | " | 1 | 100×50 | 焼石23 | " | |
| | " | 1 | 70×50 | 焼石5、種子6 | 黒浜式 | |
| | " | 1 | 60×60 | 焼石38、土器1、炭 | 花積下層式 | |
| | 上部貝層中 | 1 | 130×60 | 焼石39Q、土器1 | 黒浜式 | |
| | 上部貝層外 | 1 | 200×200 | 焼石55、土器2、種子5、炭 | 花積下層式 | |
| | " | 1 | 90×80 | 焼石93、土器1、種子4 | 黒浜式 | |
| | " | 1 | 90×90 | 焼石149、材1、炭 | " | |
| | " | 1 | 50×30 | 焼石7 | " | |
| | " | 1 | 110×70 | 焼石39、土器1 | " | |
| | " | 1 | 75×55 | 焼石93、炭3 | " | |
| | " | 1 | 35×30 | 焼石71、土器1、炭8 | 関山Ⅱ式 | |
| " | 1 | 80×50 | 焼石49、骨 | 黒浜式 | | |
| " | 1 | 55×40×5 | 焼石23、土器 | 前期末 | | |
| 集石跡 | 上部貝層中 | 1 | 70×45×7 | 焼石51、灰 | 花積下層式 | 寺門義範「千葉市神門遺跡の調査」(加曾利貝塚塚博物館『東京湾沿岸の早・前期貝塚』)昭和64年 |
| | " | 1 | 70×20×6 | 焼石17、灰 | " | |
| | " | 1 | 90×90×10 | 焼石148、灰 | 浮島Ⅰ式 | |
| | 上部貝層外 | 1 | 80×80 | 焼石75、骨1、灰 | 花積下層式 | |

註 貝層外-砂州

9) 村田川沿岸

村田川は、千葉県長生郡長柄町味庄の標高約130 m付近に源を発し、しばらく北流して、千葉県大木戸付近から西に方向を転じ、千葉・市原両市の境を通して東京湾に注ぐ、延長約22キロである。この河の本文流沿岸の台地に分布する縄文時代の貝塚は11ヶ所、貝ブロックを包含する遺跡は3ヶ所で、このうち貝ブロック遺跡の1ヶ所のみが、上流地域の一面にある千葉市大椎町東台に発見されている。

東台遺跡は、このあたり周辺約300ヘクタールに「あすみが丘」と称する住宅団地の造成に伴う遺跡の調査によって判明した。遺跡の位置は大木戸から東南に侵入する村田川の支流の南岸に向する標高86.05～88.70 mの台地である。いまだ発掘報告書に接しないが、周辺一帯と隣接する「昭和の森」公園にかけての遺跡群を記載した発掘報告によると、このあたりには早期前半から前期にかけての遺跡が濃厚に分布する。特に関山式期には数ヶ所にかんがりの集落が存在していた。このことは「昭和の森」公園内にある関山式期の辰ヶ台貝塚の周辺に、同時期の大型住居址1軒を含む12軒・住吉遺跡の1軒・東台遺跡の12軒などの発見によって実証される。ただ、辰ヶ台の立地は、九十九里海岸に注ぐ南白亀川の支流小中川の水源近くであり、住吉は村田川と小中川の分水点付近にある点が東台とは異なるが、両遺跡と東台の距離は約2キロ前後にすぎない。しかも辰ヶ台貝塚の貝類と東台の遺構中に入っていたと伝聞する貝類に外



1. 北河原遺跡 1遺跡 2. 南河原遺跡 5遺跡 3. 南河原遺跡 3遺跡 4. 大椎町 1遺跡 5. 東台遺跡
6. 辰ヶ台貝塚 7. 住吉遺跡

第8図 村田川上流地域における関山式期遺跡の分布

東台遺跡周辺の縄文遺跡

| 遺跡名 | 所在地 | 採集土器 | 備考 | 文献 |
|--------|---|---|------------------|----|
| 東台 | 千葉市大椎町 | 茅山・花積下層・関山 | 貝ブロック 関山式期住居址 | ① |
| 辰ヶ台 | 千葉市小食十町 | 花積下層・関山・加E | 貝塚 関山式期住居址 | ②③ |
| 北河原坂第2 | " | 田戸下層・茅山・関山 | | ① |
| 南河原坂第1 | " | 三戸・茅山・関山 | | ① |
| 南河原坂第5 | " | 三ノ・関山・黒浜・諸磯a・b・浮島Ⅲ・興津・下小野 | 三戸式期住居址 前期住居址 | ① |
| 坂ノ越 | " | 三戸・野島・茅山 | | ① |
| 文六第1 | 千葉市人権町 | 稲荷台・三戸・鶴ヶ島台・茅山・諸磯・浮島・加E | | ① |
| 文六第2 | " | 井草・野島・三戸・鶴ヶ島台・茅山・諸磯・浮島・阿玉台 | | ① |
| 大椎第2 | " | 田戸下層・茅山・関山 | | ① |
| 住吉 | 千葉市小食土町 | 井草・夏島・田戸下層・田戸上層・茅山下層・茅山上層・花積下層・関山・浮島・加E・堀之内 | 関山式期住居址 | ③ |
| 文献 | ① 千葉市土気地区遺跡調査会『千葉市土気地区埋蔵文化財調査報告』Ⅰ、昭和55年 ② 川戸彰『辰ヶ台貝塚発掘報告』昭和40年 ③ 千葉市文化財調査協会『千葉市辰ヶ台・住吉・栗住古遺跡』平成元年 | | | |

千葉市

貝層・貝ブロックを含む遺跡一覧表

| No | 通しNo | 保埋文分布 地 図 No | 貝層・貝 ブロックを 含む遺跡 | 所 在 地 | 早 期 | 前 期 | 中 期 | 後 期 | 晩 期 | 土 器 の 型 式 |
|-----|------|-----------------|-----------------------|----------------|--------|--------|--------|--------|--------|--|
| | | | | | | | | | | |
| 156 | 24 | 41-1244 | 愛 生 | 愛生町 | | | | | | 加曾利FⅡ・加曾利FⅢ・ 称名寺 |
| 157 | 25 | 41-188 | 餅ヶ崎 | 源町297他 | | | | | | 井草Ⅰ・Ⅱ・夏島・福荷合・ 田戸下藩・駒ヶ崎合・茅山・ 中峠・菅利・加曾利EⅡ・ Ⅳ・称名寺・堀之内・加曾 利B・安行Ⅰ |
| 158 | 26 | 41-194 | 殿 台 | 殿台町298他 | | | | | | 黒浜・加曾利E・加曾利B Ⅰ・安行Ⅰ・Ⅱ・Ⅲa |
| 159 | 27 | | 西 寺 山 | 源町西寺山 | | | | | | 加曾利F・堀之内 |
| 160 | 28 | 41-200 | 北 前 原 | 源町源小字北前原 | | | | | | 井草・加曾利E・称名寺 |
| 161 | 29 | 41-189 | すすき山 | 源町すすき山 | | | | | | 茅山・加曾利EⅢ・堀之内 |
| 162 | 30 | | 殿 台 前 | 殿台町殿台向 | | | | | | 加曾利E・堀之内・加曾利B |
| 163 | 31 | 41-264 | 東 寺 山 | 東寺山町宮街道・ 本郷 | | | | | | 阿玉台・加曾利EⅠ・Ⅱ・ 堀之内・加曾利B・安行Ⅰ |
| 164 | 32 | 41-247 | 東寺山南 (福毛台東) | 東寺山町福毛台 | | | | | | 阿玉台・加曾利E |
| 165 | 33 | 41-205 | 廿五里北 | 源町851他 | | | | | | 加曾利EⅡ・Ⅲ・堀之内Ⅰ 加曾利B・安行 |
| 166 | 34 | 41-290 | 廿五里南 (廿五里) | 源町廿五里840 -1 | | | | | | 阿玉台・加曾利EⅠ・Ⅱ・ 堀之内・加曾利B |
| 167 | 35 | 41-294 | 北 原 | 高品町北原 | | | | | | 茅山・浮島・加曾利B・安 行Ⅰ・Ⅱ |
| 168 | 36 | 41-244 | 高品 (高品第1) | 高品町宮蔵 | | | | | | 浮島・加曾利E |
| 169 | 37 | 41-350 | 貝 堤 (東田) | 高品町90他 | | | | | | 茅山・竊鏡a・b・c・浮島Ⅰ Ⅱ・Ⅲ・興津・阿玉台・加曾利 E・加曾利B・安行Ⅰ |
| 170 | 38 | 41-273 | 章 刈 場 | 貝塚町木戸作 | | | | | | 加曾利E・堀之内・加曾利 B・安行Ⅰ・Ⅱ・Ⅲa・Ⅲc 黒浜・浮島・下小野・阿玉 台・称名寺・堀之内Ⅰ・Ⅱ |
| 171 | 39 | 41-275 | 向ノ内 (急須島南) | 貝塚町向ノ内・ 尻籠 | | | | | | 阿玉台・加曾利E・加曾利 B・竊鏡a・浮島・堀之内 Ⅰ・Ⅱ・安行Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ |

(太線は貝屑・貝ブロックの形成時期)

| 規模 | 備考 | 主要文献 |
|----------------|-------------|---|
| 地点 | 消滅 | 昭和57年加曾利貝塚博物館調査 |
| 貝ブロック点 | 発掘 消滅 | 千葉市教育委員会「千葉市源町餅ヶ崎遺跡発掘調査予報」昭和55年 横田正美「杣鏡形住居址とその遺物について」『千葉市源町餅ヶ崎遺跡』 (「加曾利貝塚博物館紀要」) 9. 昭和58年 |
| 馬蹄形 | 一部消滅 | 千葉市教育委員会「千葉市史史料編」I 昭和51年 阿部芳郎「千葉市政古町取台貝塚出土の遺物について」(「貝塚博物館紀要」 8) 昭和57年 |
| 地点 | 消滅 | 伊藤和夫・金子浩昌「千葉県石器時代遺跡地名表」昭和34年 千葉市教育委員会「千葉市史史料編」I 昭和51年 |
| 貝ブロック地 | 消滅 | (「貝塚博物館紀要」) 5 すずき山遺跡の報告の第1表にある。 |
| 点在貝ブロック 馬蹄形 | 完掘 消滅 | 後藤和民・辻司克「千葉市源町すずき山遺跡発掘調査概報」(「貝塚博物館紀 要」) 5 昭和47年 横田正美「縄文時代中期末期における文化様相」(「貝 塚博物館紀要」) 8 昭和57年 |
| 点在 | 消滅 | 千葉市教育委員会「千葉市史史料編」I 昭和51年 |
| 馬蹄形 | 保存・発掘 半壊 | 東寺山遺跡群発掘調査会「千葉市東寺山遺跡群発掘調査報告書」昭和45年 千葉市教育委員会「千葉市史史料編」I 昭和51年 |
| 点在 | 半壊 | 千葉県文化財センター「昭和56年度発掘された遺跡展—千葉市東寺山遺跡」昭和 56年 千葉県文化財保護協会「千葉県の貝塚」昭和58年 |
| 馬蹄形 | 発掘 一部消滅 | 千葉県教育庁文化課「千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報」昭和58年 |
| 馬蹄形 | 発掘 半壊 | 日本考古学協会「日本考古学年報」24 昭和48年 千葉県教育庁文化課「千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報」昭和58年 |
| 点在 | 消滅 | 千葉市教育委員会「千葉市史史料編」I 昭和51年 |
| 点在 | 消滅 | 千葉市教育委員会「千葉市史史料編」I 昭和51年 |
| 地点 | | 千葉市教育委員会「千葉市史史料編」I 昭和51年 寺門義純「千葉市東町遺跡出土の資料を變にして」(「貝塚博物館紀要」) 12 昭和60年 |
| 馬蹄形 | 保存・発掘 半壊 | 伊藤和夫・金子浩昌「千葉県石器時代遺跡地名表」昭和34年 穴倉昭一郎「貝塚町貝塚群の現状とその歴史的意義」(日本考古学協会埋蔵文 化財保護対策委員会「貝塚町貝塚群と原始集落」I 昭和51年 千葉県文化財保護協会「千葉県の貝塚」昭和58年 |
| 点在 | 半壊 | 柿沼修平ほか「草刈場貝塚南側付近採集の遺物について」(「ふさ」) 2 昭和47年 穴倉昭一郎「貝塚町貝塚群の現状とその歴史的意義」(日本考古学協会埋蔵文 化財保護対策委員会「貝塚町貝塚群と原始集落」I 昭和51年 千葉県文化財保護協会「千葉県の貝塚」昭和58年 |

| 通し No | 市町 村別 | 県埋文分布 地 図 No | 貝類・貝 ブロックを 含む遺跡 | 所 在 地 | 早 期 | 前 期 | 中 期 | 後 期 | 晩 期 | 土 器 の 型 式 |
|----------|----------|-----------------|-----------------------|-------------------|--------|--------|--------|--------|--------|---|
| | | | | | | | | | | |
| 172 | 40 | 41-355 | 荒屋敷西 | 貝塚町貝塚向 | | | | | | 関山・浮島・興津・諸磯 a ・ b・黒浜・加曾利 E・安 行 II |
| 173 | 41 | | 西光院 (干場) | 貝塚町花辺田 | | | | | | 阿玉台・加曾利 E・加曾利 B |
| 174 | 42 | 41-274 | 貝殻後 | 貝塚町貝殻後 | | | | | | 阿玉台・加曾利 E I・II・ 加曾利 B |
| 175 | 43 | 41-346 | 東辺田 (荒屋敷北) | 貝塚町東辺田 | | | | | | 夏島・黒浜・浮島・阿玉台・ 加曾利 E IV・称名寺・堀之 内 I・加曾利 B・安行 I・ 安行 II |
| 176 | 44 | 41-349 | 荒屋敷 | 貝塚町畑中 | | | | | | 黒浜・諸磯 a・浮島・五領 ヶ台・阿玉台・藤坂・加曾 利 E I・II・III・IV・称名 寺・堀之内・加曾利 B・安行 |
| 177 | 45 | 41-348 | 台 門 | 貝塚町台門・ 殿作 | | | | | | 阿玉台・加曾利 E・堀之内・加 曾利 B・安行 I・III・IIIb・ 黒浜・五領ヶ台・称名寺 |
| 178 | 46 | 41-347 | 姥ヶ作 | 貝塚町姥ヶ作 | | | | | | 阿玉台・加曾利 E III・IV・ 堀之内 |
| 179 | 47 | 41-371 | 車 坂 | 貝塚町 1351 他 | | | | | | 諸磯・浮島・阿玉台・加曾 利 E・称名寺・加曾利 B |
| 181 | 49 | 41-365 | 木 戸 場 | 都町 1 丁目 47 他 | | | | | | 夏島・浮島・諸磯 a・b |
| 182 | 50 | 41-676 | 野呂山田 | 野呂町山田 669 -1-2 | | | | | | 加曾利 E III・堀之内・加曾 利 B I・II・安行 I・II・ III a・III b |
| 183 | 51 | 41-632 | 多 部 田 | 多部町貝殻作 | | | | | | 堀之内 I・II・加曾利 B I II・III・安行 I・II |
| 185 | 53 | | 北谷津 (上の台) | 北谷津町上ノ台 | | | | | | 阿玉台・加曾利 E・堀之内 |
| 186 | 54 | 41-301 | 中 畑 | 小畑町 861-9 他 | | | | | | 加曾利 E III・IV |
| 187 | 55 | 41-417 | 蔵 立 | 千城山西町蔵立 | | | | | | 阿玉台・加曾利 E I・II・ 堀之内 |

| 規 模 | 備 考 | 主 要 文 献 |
|---------------------|-----------------|--|
| 点 在 半 壊 | | 伊藤和夫・金子浩昌『千葉県石器時代遺跡地名表』昭和34年 穴倉昭一郎「貝塚町貝塚群の現状とその歴史的意義」（日本考古学協会埋蔵文化財保護対策委員会「貝塚町貝塚群と集落」）昭和51年 千葉県文化財保護協会「千葉県の貝塚」昭和58年 |
| 点 在 | | 千葉市立高校社会研究クラブ「葭川流域遺跡分布調査概報」昭和46年 千葉県文化財保護協会「千葉県の貝塚」昭和58年 |
| 点 在 発 掘 一部 残 存 | | 千葉県文化財センター「千葉市荒屋敷貝塚」昭和53年 千葉県文化財保護協会「千葉県の貝塚」昭和58年 |
| 点 在 発 掘 一部 残 存 | | 穴倉昭一郎「貝塚町貝塚群の現状とその歴史的意義」（日本考古学協会埋蔵文化財保護対策委員会「貝塚町貝塚群と原始集落」）昭和51年 千葉県文化財保護協会「千葉県の貝塚」昭和58年 千葉県文化財センター「千葉市荒屋敷北貝塚・谷津上・須摩編遺跡」昭和61年 |
| 馬 蹄 形 | 発掘・保存 一部 消 滅 | 千葉県都市公社「千葉市荒屋敷貝塚」昭和49年 千葉県文化財センター「千葉市荒屋敷貝塚」51年 千葉県文化財センター「千葉市荒屋敷貝塚」昭和53年 |
| 馬 蹄 形 | 発 掘 消 滅 | 伊藤和夫・金子浩昌『千葉県石器時代遺跡地名表』昭和34年 口森晃一「千葉市貝塚町貝塚群の研究予報」昭和57年 |
| 点 在 | 一部 消 滅 | 千葉市立高校社会研究クラブ「葭川流域遺跡分布調査概報」昭和46年 千葉県文化財保護協会「千葉県の貝塚」昭和58年 |
| 点 在 貝ブロック | 発 掘 消 滅 | 千葉県都市公社「京葉」昭和48年 |
| 点 在 | 一部 残 存 | 千葉市「千葉市誌」昭和28年 千葉市教育委員会「千葉市史史料編」Ⅰ 昭和51年 |
| 点 在 | 発 掘 | 川戸彰「野呂山田貝塚」（千葉県教育委員会「印刷・手賀沼周辺地域埋蔵文化財調査」）昭和56年 千葉県文化財保護協会「千葉県の貝塚」昭和58年 |
| 馬 蹄 形 | 発 掘 | 前田潮「千葉県多摩川貝塚出土動物遺体」（『人塚考古』5）昭和39年 千葉県文化財保護協会「千葉県の貝塚」昭和58年 昭和29年東京教育大学発掘 |
| 点 在 | 一部 残 存 | 千葉市教育委員会「千葉市史史料編」Ⅰ 昭和51年 |
| 貝 点 ブロック 在 | 発 掘 一部 残 存 | 千葉県文化財センター「千葉市中継遺跡」昭和61年 |
| 点在馬蹄形 | 発 掘 消 滅 | 武田宗久「千葉県千葉市蔵立貝塚」（『日本考古学年報』4）昭和30年 千葉市教育委員会「千葉市史史料編」昭和51年 |

| No | 県埋文分布 地 図 No | 貝層・貝 ブロックを 含む遺跡 | 所 在 地 | 早 期 | 前 期 | 中 期 | 後 期 | 晩 期 | 土 器 の 型 式 |
|-----|-----------------|-----------------------|--------------------|---|--------|--------|--------|--------|---|
| | | | | | | | | | |
| 188 | 56 | 41-400 | さら 坊 | 千城台西さら坊 | | | ■ | | 阿玉台・加曾利EⅠ・Ⅱ・ 堀之内・加曾利B |
| 187 | 57 | 41-376 | 台 (坂月台) | 坂月町170 | | | | ■ | 加曾利E・堀之内・加曾利B |
| 190 | 58 | 41-309 | 広ヶ作 | 小倉町1756 他 | | | ■ | | 加曾利EⅢ・加曾利BⅠ |
| 191 | 59 | 41-300 | 滑 橋 | 小倉町谷頭 | | | ■ | | 加曾利EⅡ・Ⅲ・堀之内Ⅰ |
| 192 | 60 | 41-299 | 加 曾 利 | 桜木町京願台 | | | ■ | ■ | 茅山・関山・黒浜・五領ヶ 台・阿玉台・加曾利EⅠ・ Ⅱ・Ⅲ・称名寺・堀之内Ⅰ・ Ⅱ・加曾利BⅠ・Ⅱ・Ⅲ・ 安行Ⅰ・Ⅱ・Ⅲa・Ⅲb・ 姥山台Ⅲ・大洞BC・CⅠ |
| 193 | 61 | | 加曾利西 | 桜木町京願台 | | | | ■ | 堀之内Ⅰ |
| 194 | 62 | 41-359 | 花 輪 | 加曾利町 ¹⁰²⁰ 〜 ¹⁰³⁰ | | | ■ | ■ | 加曾利E・堀之内 |
| 195 | 63 | 41-354 | 向ノ台 | 都町向ノ台 | ■ | | | | 山戸上層・了母口・茅山・ 諸磯 |
| 196 | 64 | 41-343 | 内ノ下通 (宝尊寺台) | 都町西ノ下通 676 他 | | ■ | | | 関山・黒浜・諸磯a・b・c 浮島Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・下小野・ 五領ヶ台 |
| 197 | 65 | 41-504 | 滝ノ谷 (大久保) | 大宮町3065-3 | | | ■ | ■ | 黒浜・諸磯・阿玉台・加曾 利E・堀之内・加曾利B |
| 198 | 66 | 41-506 | 押 元 | 大宮町3763 他 | | | ■ | ■ | 加曾利E・堀之内・加曾利B |
| 199 | 67 | 41-879 | 水 砂 (東水砂 第2) | 平山町南水砂・ 東水砂 | | | ■ | | 加曾利EⅢ・Ⅳ・堀之内・ 加曾利B |
| 200 | 68 | 47-698 | 長 谷 部 (主理台) | 千葉市平山町 主理台 | | | ■ | ■ | 阿玉台・加曾利E・堀之内・ 加曾利B・安行Ⅰ・Ⅱ |
| 201 | 69 | 47-756 | 築 地 台 | 平山町築地台 | | | ■ | ■ | 加曾利EⅢ・Ⅳ・称名寺・堀之内・ 加曾利B・安行Ⅰ・Ⅱ・Ⅲa・Ⅲb・ 藤浦・姥山台・大洞B-C・荒海 |
| 202 | 70 | 47-739 | 吾 妻 | 平山町吾妻61 | | | ■ | ■ | 阿玉台・加曾利E・堀之内 Ⅰ・加曾利B・諸磯 |

| 規模 | 備考 | 主要文献 |
|--------|----------------------|--|
| 点在 | 発掘 一部消滅 | 千葉市教育委員会「千葉市史料編」I 昭和51年 |
| 点在 | 一部消滅 | 千葉市「千葉市誌」昭和28年 千葉市教育委員会「千葉市史料編」I 昭和51年 |
| 点在馬蹄形 | 発掘・掘 一部消滅 | 山武郡考古学研究所「広ヶ作遺跡調査報告」昭和59年 「千葉市史料編」I・昭和51年 昭和56年 山武郡考古学研究所調査 |
| 現状・馬蹄形 | 発掘・保存 一部消滅 | 大山史前学研究所「千葉県千葉郡都村加曾利貝塚調査報告」（『史前学雑誌』9-1）昭和12年 「加曾利貝塚」I・II・III・IV（貝塚博物館調査資料1.2.3.4集）昭和42・43・45・46年 後藤和民・庄司克・飯塚博和「加曾利貝塚東傾斜面調査概報」（『貝塚博物館紀要』6.7.8号）昭和56・57年 |
| 点在 | | 千葉市立加曾利貝塚博物館「加曾利貝塚博物館20年の歩み」昭和62年 |
| 馬蹄形 | 一部消滅 | 千葉県文化財保護協会「千葉県の貝塚」昭和58年 |
| 地点 | 発掘 掘滅 | 「千葉市都町字向ノ台貝塚の発掘に就いて」（千葉県立千葉中学校校友会「かつらぎ」復刊号）昭和22年 千葉市「千葉市誌」昭和28年 |
| 地点 | 標高7~8m 発掘 一部残存 | 庄司克「宝壽寺台貝塚発掘調査概報」（加曾利貝塚博物館「貝塚博物館紀要」3）昭和45年 寺門義範「縄文時代前期後半から中期初頭にかけての—資料」（『貝塚博物館紀要』11）昭和59年 |
| 点在 | 一部消滅 | 千葉市教育委員会「千葉市史料編」I 昭和51年 千葉県文化財センター「千葉県埋蔵文化財分布地図」2 昭和61年 |
| 点在 | 一部消滅 | 千葉県文化財保護協会「千葉県の貝塚」昭和58年 |
| 点在 | | 千葉市教育委員会「千葉市史料編」I 昭和51年 千葉市教育委員会「千葉市埋蔵文化財分布地図」昭和59年 |
| 馬蹄形 | 発掘 掘滅 一部残存 | 伊藤和夫・金子浩昌「千葉県石器時代遺跡地名表」昭和34年 千葉県文化財保護協会「千葉県の貝塚」昭和58年 |
| 点在馬蹄形 | 発掘 一部消滅 | 久保常晴「千葉県千葉郡築地台貝塚」（『日本考古学年報』2.3）昭和24・25年 千葉県文化財センター「千葉市築地台貝塚・平山古墳」昭和53年 |
| 点在 | 一部消滅 | 千葉市教育委員会「千葉市史料編」I 昭和51年 千葉県文化財保護協会「千葉県の貝塚」昭和58年 |

| No | | 県埋文分布 地 図 No | 貝類・貝 ブロックを 含む遺跡 | 所 在 地 | 早 期 | 前 期 | 中 期 | 後 期 | 晩 期 | 土 器 の 型 式 |
|----------|----------|-----------------|-----------------------|----------------------------|--------|--------|--------|--------|--------|---|
| 通し No | 市町 村別 | | | | | | | | | |
| 203 | 71 | 47-737 | 台 畑 | 平山町台畑 | | | | | | 阿玉台・加曾利E I・II・III・安行I・堀之内・加曾利B |
| 204 | 72 | 47-992 | 六 通 | 大金沢町字六通 | | | | | | 堀之内I・II・加曾利B I・II・III・曾谷・安行I・II・IIIa・IIIc |
| 205 | 73 | 47-1027 | 野 用 (野田小谷) | 替田町一丁目 小谷・一里塚南 | | | | | | 阿玉台・加曾利E III・加曾利B |
| 206 | 74 | 47-742 | 立 堀 | 辺田町雲中 | | | | | | 堀之内・加曾利B |
| 207 | 75 | 47-735 | 菱 名 | 平山町菱名 | | | | | | 阿玉台・加曾利E I・II |
| 208 | 76 | 41-596 | へたの台 | 仁戸名町 ²⁷⁰ 280 | | | | | | 阿玉台・加曾利E I・II |
| 209 | 77 | 41-597 | 月ノ木 | 仁戸名町月ノ木 | | | | | | 加曾利E・堀之内・加曾利B |
| 210 | 78 | 41-493 | 高 崎 台 | 星久高町800 ～814他 | | | | | | 堀之内 |
| 212 | 80 | 41-475 | 矢 作 | 矢作町貝殻 | | | | | | 茅山・諸磯・加曾利E・堀之内I・II・加曾利B・安行I・II・IIIa |
| 213 | 81 | 41-482 | 亥 鼻 | 亥鼻町1-6-1 | | | | | | 堀之内I・加曾利B |
| 214 | 82 | 41-583 | 種 荷 山 | 千葉寺町種荷山 | | | | | | 茅山・諸磯 |
| 215 | 83 | | 雉ノ宮 | 赤井町向台538 ～540 | | | | | | 堀之内 |
| 216 | 84 | 47-606 | オクマンノ | 宮崎町奥力野台 北640 | | | | | | 茅山 |
| 217 | 85 | 47-734 | 狐 塚 | 今井町146字 番匠免 | | | | | | 堀之内・加曾利B |
| 218 | 86 | | 大覚寺 山崎 | 生実町大覚寺崎 | | | | | | 堀之内・加曾利B |
| 219 | 87 | 47-987 | 森 台 (生実台) | 南生実町南生実 台973 | | | | | | 縄文鳥台・茅山・堀之内・加曾利B |
| 220 | 88 | 47-867 | 鎌取場台 | 鎌取町鎌取場台 | | | | | | 堀之内・加曾利B |
| 221 | 89 | 47-874 | 南二重堀 | 生実町2857 -1他 | | | | | | 種荷台・黒沢・浮島・阿玉台・加曾利E I・II・堀之内 |
| 222 | 90 | 47-857 | 上 赤 塚 | 南生実町上赤塚 | | | | | | 茅山・加曾利E・堀之内・加曾利B・安行I・II |

| 規 模 | 備 考 | 主 要 文 献 |
|--------------|---------------------|--|
| 点 在 | | 千葉市教育委員会『千葉市史史料編』Ⅰ 昭和51年 千葉県文化財保護協会『千葉県の貝塚』 昭和58年 |
| 馬 蹄 形 | 保 存 標高40～ 47m | 千葉市教育委員会『千葉市史史料編』Ⅰ 昭和51年 千葉県文化財センター「六通貝塚貝層掘削確認調査」『研究連絡誌』18号 昭和 61年 『千葉県文化財センター年報』11 昭和61年 |
| 点 在 | 消 滅 | 千葉市教育委員会『千葉市史史料編』Ⅰ 昭和51年 千葉市教育委員会「千葉市埋蔵文化財分布地図」 昭和59年 |
| 地 点 | | (なし) |
| 点在馬蹄形 | 発 掘 半 壊 | 後藤和民・庄司克「千葉市平山町菱名貝塚調査概報」(千葉市加曽利貝塚博物 館『貝塚博物館紀要』2) 昭和44年 |
| 点在馬蹄形 | 一部 消 滅 | 千葉市『千葉市誌』 昭和28年 |
| 馬 蹄 形 | 発掘・保存 | 千葉市『千葉市誌』 昭和28年 |
| 点 在 | 一部 消 滅 | 千葉県文化財保護協会『千葉県の貝塚』 昭和58年 |
| 馬 蹄 形 | 発 掘 消 滅 | 武田宗久「下総国矢作貝塚発掘報告」(『考古学』9の8 昭和13年 千葉県文化財センター『千葉市矢作貝塚』 昭和56年 |
| 地 点 | 一部 残 存 | 千葉県文化財保護協会『千葉県の貝塚』 昭和58年 |
| 点 在 | 消 滅 | 伊藤和夫・金子浩昌「千葉県石器時代遺跡地名表」 昭和34年 |
| 点 在 | 消 滅 | 千葉市教育委員会『千葉市史史料編』Ⅰ 昭和51年 千葉県文化財センター『千葉県埋蔵文化財分布地図』② 昭和61年 |
| 点 在 | 一部 残 存 | 千葉市教育委員会『千葉市史史料編』Ⅰ 昭和51年 |
| 地 点 | 消 滅 | 武田宗久「千葉市今井町狐塚古墳」(千葉県教育委員会『千葉県遺跡調査報 告』) 昭和40年 千葉市教育委員会『千葉市史史料編』Ⅰ 昭和51年 |
| 地 点 | 消 滅 | 千葉市教育委員会『千葉市史史料編』 昭和51年 千葉市文化財センター『千葉県埋蔵文化財分布地図』② 昭和61年 |
| 馬 蹄 形 | 一部 消 滅 | 千葉県文化財保護協会『千葉県の貝塚』 昭和58年 |
| 点 在 | | 千葉県文化財センター『千葉県埋蔵文化財分布地図』② 昭和61年 |
| 貝ブロック 点 在 | 発 掘 | 千葉県文化財センター「南「重頼遺跡」」(『千葉県南部ニュータウン』12) 昭和58年 |
| 馬 蹄 形 | 保 存 | 千葉県文化財センター『千葉県埋蔵文化財分布地図』2 昭和61年 |

| No | | 県埋文分布 地区 No | 貝類・貝 ブロックを 含む遺跡 | 所在地 | 早期 | 前期 | 中期 | 後期 | 晩期 | 土器の型式 |
|----------|----------|----------------|-----------------------|----------------|----|----|----|----|----|--|
| 通し No | 市町 村別 | | | | | | | | | |
| 223 | 91 | 47-865 | 有吉北 (日原町) | 有吉町730他 | | | | | | 茅山・中幹・阿玉台・加曾利 E I・II・III・IV・称名寺・堀 之内・加曾利B・安行I・II |
| 224 | 92 | 47-873 | 大井戸作 | 有吉町駒見谷 大井戸作 | | | | | | 加曾利E・堀之内・加曾利B |
| 225 | 93 | 47-1226 | 神門 | 南生実町神門 740他 | | | | | | 鶴ヶ島台・茅山・花積下層 関山I・II・黒浜・諸磯a b・浮島I・III・三善堤・荒 海 |
| 226 | 94 | 47-871 | 有吉南 (有吉宮 前・有吉) | 有吉町481他 | | | | | | 加曾利E I・II・称名寺・ 堀之内I・II・加曾利B |
| 227 | 95 | 47-875 | 有吉城跡 | 有吉町有吉城址 | | | | | | 茅山上層 |
| 228 | 96 | 47-1012 | 小金沢 (堂面) | 小金沢町929- 4他 | | | | | | 茅山・黒浜・加曾利E IV・堀 之内I・加曾利B・安行I・II |
| 229 | 97 | 47-995 | 木戸作 (椎名崎) | 椎名崎町859他 | | | | | | 加曾利E・称名寺・堀之内 I・加曾利B |
| 230 | 98 | 47-1023 | 六邊金山 | 大金沢町480他 | | | | | | 茅山・加曾利E III・IV |
| 231 | 99 | 47-1022 | 大膳野北 | 大金沢町543-2 他 | | | | | | 茅山上層・黒浜・諸磯a・ b・浮島・興津・阿玉台・ 加曾利E II・III・加曾利B II・千瀬・大洞A |
| 232 | 100 | 47-1080 | 大膳野南 (長堀) | 大金沢町オケラ台 | | | | | | 諸磯・加曾利E・堀之内・ 加曾利B |
| 233 | 101 | 47-1077 | 杉ノ台 | 中西町中内宮山 | | | | | | 加曾利B |
| 234 | 102 | 48-802 | 中野 御堂 | 中野町1224他 | | | | | | 茅山・加曾利E III・IV・称 名寺・堀之内・加曾利B |
| 235 | 103 | 47-789 | 八反目台 (白方本) | 野呂町八反目台 | | | | | | 夏島・加曾利E III・称名寺 堀之内I・加曾利B I・II III・曾谷・安行I・II・IIIa・ IIIc・姥山台II・III |
| 236 | 104 | 47-785 | 宮ノ台 | 野呂町宮ノ台 | | | | | | 加曾利E・堀之内I・加曾 利B・安行I |

| 規 模 | 備 考 | 上 要 文 献 |
|--------------|------------------------|---|
| 点在馬蹄形 半 | 発掘 半壊 | 上守秀明・小宮孟「千葉県千葉市有吉北貝塚の調査」（『日本考古学協会第53 回總會研究発表要旨』）昭和62年 |
| 点 在 | 消 滅 | 伊藤和夫・金子浩昌「千葉県石器時代遺跡地名表」昭和64年 |
| 地 点 | 発掘 標高6.5m 約1/2残存 | 金丸誠・麻生正信・服部哲則「低湿地遺跡の水没木質遺物の取り上げ」（千葉 県文化財センター「研究連絡誌」20号）昭和62年 千葉県文化財センター「千葉市浜野川遺跡群」昭和63年 寺門義範「神門遺跡の調査」（千葉県文化財調査協会「浜野川神門遺跡現地説 明会資料」）昭和63年 |
| 馬蹄形 | 保 存 一部消滅 | 伊藤和夫・金子浩昌「千葉県石器時代遺跡地名表」昭和64年 千葉県文化財保護協会「千葉県貝塚」昭和68年 千葉県文化財センター「千葉県埋蔵文化財分布地図」②昭和61年 |
| 貝ブロック 点 在 | 発掘 | 千葉県文化財センター「馬ノ口遺跡・有古城跡・白鳥台遺跡」（『千葉県南部 ニュータウン』15）昭和59年 |
| 点在馬蹄形 | 完 掘 消 滅 | 千葉県文化財センター「小命沢貝塚」（『千葉県東南部ニュータウン』10） 昭和57年 |
| 点在馬蹄形 | 完 掘 消 滅 | 千葉県文化財センター「木ノ作遺跡」（『千葉県東南部ニュータウン』2・7） 昭和50・54年 |
| 貝ブロック 点 在 | 発掘 | 千葉県文化財センター「六通金」遺跡」（『千葉県東南部ニュータウン』11） 昭和56年 |
| 貝ブロック 点 在 | 発掘 | 千葉県文化財センター「千葉市入膳野北遺跡」（昭和57年） 千葉県文化財センター「大膳野北遺跡」（『千葉県東南部ニュータウン』16） 昭和60年 |
| 点在馬蹄形 | 保 存 | 伊藤和夫・金子浩昌「千葉県石器時代遺跡地名表」昭和64年 千葉県文化財センター「千葉県埋蔵文化財分布地図」②昭和61年 |
| 地 点 | 消 滅 | 千葉県文化財センター「千葉県埋蔵文化財分布地図」②昭和61年 |
| 貝ブロック 点 在 | 発掘 消 滅 | 千葉県文化財センター「千葉市僧伽堂遺跡」昭和52年 |
| 点在馬蹄形 | | 田中英世「千葉市八反目貝塚」（千葉市加曾利貝塚博物館「貝塚博物館紀要」 11）昭和59年 |
| 貝ブロック 点 在 | 消 滅 | 千葉市遺跡調査会「駒込遺跡」昭和58年8月の遺跡の概観に記載 田中英世「千葉市八反目台貝塚」（『加曾利貝塚博物館紀要』11）昭和59年 |

| No | | 領理文分布 地区 No | 日厨・貝 ブロックを 含む遺跡 | 所在地 | 早 期 | 前 期 | 中 期 | 後 期 | 晩 期 | 土 器 の 型 式 |
|----------|----------|----------------|-----------------------|------------------------|--------|--------|--------|--------|--------|--|
| 通し No | 市町 村別 | | | | | | | | | |
| 237 | 105 | 47-906 | 菅田高田 | 高田町字冬寒台 中芝・貝塚 | | | | | | 加曾利E・堀之内・加曾利 B・安行I・II |
| 238 | 106 | 47-658 | 川 井 | 川井町字川井 400 (道ノ下) | | | | | | 早期前半・加曾利E・堀之 内・加曾利B・安行I・II・ IIIa |
| 239 | 107 | 41-404 | 荒 立 | 千城台4丁目 荒立外山 | | | | | | 阿下台・加曾利E・堀之内 加曾利B・安行IIIa |
| 301 | 109 | 41-277 | 新堀込南 (和良比北) | 貝塚町新堀込 | | | | | | 称名寺・堀之内I・II・加 曾利BI・II・安行I・II・IIIa |
| 302 | 110 | 41-276 | 草刈場東 (谷ツト) | 貝塚町谷ツ上 | | | | | | 加曾利E・称名寺・加曾利 B・安行I・II |
| 303 | 111 | 41-680 | 鷺 谷 津 | 千葉寺町鷺谷津 | | | | | | 堀之内・加曾利B |
| 304 | 112 | 41-624 | うならすず | 多部田町うならす ず | | | | | | 後 期 |
| 305 | 113 | | 東 台 | 大権町東台1009 ～東横772-1 | | | | | | 茅山・花積下層・関山 |
| 306 | 114 | 47-1028 | 大膳野北 | 大膳野町大膳野 | | | | | | 加曾利E・堀之内・加曾利 B |

四 街 道 市

| No | | 領理文分布 地区 No | 日厨・貝 ブロックを 含む遺跡 | 所在地 | 早 期 | 前 期 | 中 期 | 後 期 | 晩 期 | 土 器 の 型 式 |
|----------|----------|----------------|-----------------------|---------------------|--------|--------|--------|--------|--------|------------------------------|
| 通し No | 市町 村別 | | | | | | | | | |
| 240 | 1 | 41-74 | 中三角 (和良比 向井) | 四街道市四街道 中三角1577他 | | | | | | 井草・夏島・茅山・黒浜・ 浮島・加曾利E・加曾利B |

| 規 模 | 備 考 | 主 要 文 献 |
|--------------|----------------|---|
| 馬 蹄 形 | 発 掘 掘 高 48m | 学宮院高等科史学部『千葉県菅田高田貝塚発掘機報』 昭和30年 |
| 点 在 | 一 部 残 存 | 伊藤和夫・金子浩昌『千葉県石器時代遺跡地名表』 昭和34年 千葉市教育委員会『千葉市埋蔵文化財分布地図改訂版附編』 昭和59年 |
| 点 在 | 消 滅 | 伊藤和夫・金子浩昌『千葉県石器時代遺跡地名表』 昭和34年 千葉県文化財保護協会『千葉県の貝塚』 昭和58年 |
| 点 在 | | 日暮見一『千葉市貝塚町貝塚群の研究予報』 昭和57年 |
| 点 在 | | 穴倉昭一郎『貝塚町貝塚群の現状とその歴史的意義』日本考古学協会『貝塚町貝塚群と原始集落』 昭和61年 日暮見一『千葉市貝塚町貝塚群の研究予報』 昭和57年 |
| 点 在 | | 千葉市教育委員会『千葉市史史料編』Ⅰ 昭和51年 昭和44年加曽利貝塚博物館確認 |
| 貝ブロック | 消 滅 | 千葉市教育委員会『ラフウデン遺跡発掘調査報告』（『千葉市文化財調査報告第1集』） 昭和61年に記載 |
| 貝ブロック 点 在 | 発 掘 消 滅 | 千葉市土気地区遺跡調査会『千葉市土気地区埋蔵文化財調査報告』 昭和55年 |
| 点 在 | | 伊藤和夫・金子浩昌『千葉県石器時代遺跡地名表』 昭和34年 千葉県文化財保護協会『千葉県の貝塚』 昭和58年 千葉県文化財センター『千葉県埋蔵文化財分布地図』12 昭和61年 |

| 規 模 | 備 考 | 主 要 文 献 |
|-----|-----|---|
| 点 在 | 消 滅 | 四街道市教育委員会『千葉県四街道市埋蔵文化財分布地図』 昭和57年 千葉県文化財保護協会『千葉県の貝塚』 昭和58年 |

市原市

| No | | 梨埋文分布 地 図 No | 貝類・以 フロックを 含む遺跡 | 所 在 地 | 早 期 | 前 期 | 中 期 | 後 期 | 晩 期 | 上 器 の 型 式 |
|----------|----------|-----------------|-----------------------|-----------------|--------|--------|--------|--------|--------|--|
| 通し No | 市町 村別 | | | | | | | | | |
| 241 | 1 | 47-649 | 西郷ノ原 | 番場・鹿ノ原 | | | ■ | | | 阿玉台・加曾利E |
| 242 | 2 | 47-686 10-1 | 草刈 (下切付・ 島ヶ谷) | 草刈字下切付他 | | | ■ | | | 早期・前期・勝坂・阿玉台 曾利・大木8a・中峠・加 曾利EⅠ・Ⅱ・Ⅲ |
| 243 | 3 | 47-643 | 多竜台 | 喜多字多竜台 695他 | | | ■ | | | 加曾利E・堀之内・加曾利 B・安行Ⅰ |
| 244 | 4 | 47-599 | 手 永 | 菊間字手永 2137他 | | | ■ | | | 堀之内・加曾利B・安行 |
| 245 | 5 | 47-575 | 門 前 | 門前2-211他 | | | ■ | | | 加曾利E・堀之内・加曾利B |
| 307 | 6 | 47-598 | 福 寿 院 | 菊間字深道 | | | | | | 縄文 |
| 308 | 7 | 47-602 | 北 野 谷 | 菊間字北野谷小学 貝塚台 | | | | | | 縄文 |
| 309 | 8 | 47-596 | 小輪神社 | 菊間字雲ノ境 | | | | | | 縄文 |
| 310 | 9 | 47-597 | 徳 永 | 菊間字徳永 | | | | | | 縄文 |
| 311 | 10 | | 辰 巳 台 | 大蔵字辰巳原他 | | | | | | 縄文 |

| 規 模 | 備 考 | 主 要 文 献 |
|-------|-------------|---|
| 地 点 | | 千葉県文化財保護協会「千葉県の貝塚」 昭和58年 |
| 点在馬蹄形 | 発掘調査難 続中 | 千葉県文化財センター「草刈遺跡確認調査の概要」(『千原台ニュータウン』I) 昭和55年 千葉県文化財センター「千葉急行線」(『千葉県文化財センター年報』No.8) 昭和58年 市原市文化財センター「草刈遺跡」 昭和60年 千葉県文化財センター「草刈遺跡(B区)」(『千原台ニュータウン』III) 昭和61年 |
| 馬蹄形 | 一部消滅 | 千葉県文化財保護協会「千葉県の貝塚」 昭和58年 |
| 馬蹄形 | 発掘 消滅 | 山原山文化財研究協議会「市原市遺跡分布図」 昭和46年 鹿野光行「市原市菊間手永貝塚採集の土器片」(『伊知波良』3) 昭和55年 千葉県文化財保護協会「千葉県の貝塚」 昭和58年 |
| 馬蹄形 | 消滅 | 千葉県文化財保護協会「千葉県の貝塚」 昭和58年 |
| 地 点 | 消滅 | 千葉県文化財センター「千葉県埋蔵文化財分布地図」③ 昭和62年 |
| 地 点 | 消滅 | 千葉県文化財センター「千葉県埋蔵文化財分布地図」③ 昭和62年 |
| 地 点 | | 千葉県文化財センター「千葉県埋蔵文化財分布地図」③ 昭和62年 |
| 地 点 | | 千葉県文化財センター「千葉県埋蔵文化財分布地図」③ 昭和62年 |
| 点 在 | 消滅 | 千葉県文化財センター「千葉県埋蔵文化財分布地図」③ 昭和62年 |

洋性のダンバイキサゴが含まれていることから察すると、このあたりの縄文人は九十九里海岸と密接な関係にあることがわかる。

次に、村田川中流域では左岸に中期と思われる西麓ノ原の地点貝塚と、支谷の左岸台地に多量の馬蹄形貝塚がある。後期と思われるが詳細は不明である。

下流域では左岸の尻支谷の奥に堀之内式期と思われる辰巳台貝塚があり、これより約1キロ下った左岸に小幡神社貝塚、菊間台地の北端部に福寿院・北野谷があるが、これら3貝塚の規模・内容は全く不明である。ただ一つ北野谷貝塚の西方にある小支谷の左岸にある手永貝塚は早くから知られた後期の馬蹄形貝塚で、昭和40年代に発掘されたが、詳しい報告の刊行を見ていない。

一方右岸では、村田川の本流と通称茂呂谷津と呼ばれる支谷に挟まれた標高約30mの舌状台地の中央部南側に草刈貝塚がある。昭和54年以後、この台地一帯の住宅団地造成に伴う遺跡の発掘調査の一環として行なわれているもので、貝塚の規模は径約160mの点在馬蹄形である。昭和61年の報告書によれば、阿玉台Ⅰb式から加曾利EⅢ式までの住居址177軒・土壌573基早期の炉穴等が発見されているが、貝層形成の時期は中期である。(註1) 次に、茂呂谷津の谷口を形成する南側の舌状台地の突端部よりやや東寄りの所に加曾利B式期の点在貝塚杉ノ台がある。この谷を東方にさかのぼると、中ほどで4つの支谷に分かれる。この最も東側の谷奥に面する台地に大膳野南貝塚・大膳野北貝塚・大膳野北遺跡があり、その西側の谷奥に面する台地にも六通金山遺跡がある。さらに最も西側の谷奥に面して大金沢貝塚がある。いずれも標高50m前後を測る。右のうち大膳野南・大膳野北の両貝塚の貝層形成時期は後期であろう。大膳野北遺跡の調査によると、茅山式と思われる炉穴群と黒浜式期の住居址3・加曾利E式期7・阿玉台式期の土壌1が出土した。このうち加曾利E式期の住居址の1軒にハマグリ・シオフキ・アサリなどの貝ブロックがあった。(註2) 六通金山遺跡の調査では、茅山式期の炉穴群の他に加曾利EⅢ～IV式期の住居址5軒のうちの3軒にイボキサゴ・アラムシロ・ウミナ・ハマグリなどを伴う貝ブロックがあった。(註3) また、小金沢貝塚の全面発掘調査によると、貝層形成以前の早期末葉と思われる炉穴群3、貝層を伴わない加曾利EⅣ式期の住居址2、貝層を伴う堀之内Ⅰ式期の住居址17軒が発掘された。(註4) つまり本貝塚は、近接する木戸作貝塚と全く同じ時期に、しかも全く同じ点在馬蹄形貝塚が形成されている点が注目される。

(千葉県文化財保護審議委員会会長)

註1 千葉県文化財センター「草刈遺跡B区」(「頂台ニュータウン」)Ⅲ 昭和61年

註2 千葉県文化財センター「大膳野北遺跡」(「千葉東南部ニュータウン」)16 昭和60年

註3 千葉県文化財センター「六通金山遺跡」(「千葉東南部ニュータウン」)11 昭和56年

註4 千葉県文化財センター「小金沢貝塚」(「千葉東南部ニュータウン」)10 昭和57年